

2005年3月期決算説明会

2005.6.1

日本板硝子株式会社

本日の内容

1. 今決算のポイント、セグメント別実績概況

執行役員 経理部長

小柴 博義

2. 中期経営計画「CCP300」と 今年度の事業方針、見通しについて

代表取締役 社長執行役員

藤本 勝司

今決算のポイント

連結損益計算書

(単位:10億円)	平成16年 3月期	平成17年 3月期	前期比
売上高	269.1	265.0	98.5%
営業利益	10.0	12.0	120.3%
(営業利益率)	3.7%	4.5%	-
営業外損益	-2.3	1.2	-54.1%
経常利益	7.7	13.3	172.3%
(経常利益率)	2.9%	5.0%	-
特別損益	1.9	-1.8	-97.2%
税引前当期利益	9.6	11.4	119.0%
税引後当期利益	3.2	7.6	237.1%
(当期利益率)	1.2%	2.9%	-
1株あたり当期利益	7.2円	17.1円	-
ROE	1.6%	3.7%	-

売上

譲渡したガラス磁気ディスク(約100億円)、イソライト工業(約75億)、天津フロート(約30億)日本ペルノックス(約20億)を除くと、実質7%以上の増収。

営業利益

不採算部門のリストラとSLA、液晶基板ガラスなど成長製品の増加。

営業外損益

持分法投資利益改善(+32億円)。
支払利息減少で金融収支改善(+9億円)

特別損益

特損は60億円減少。
相対の株式売却を減らしたため
特損益ネットではマイナスに。

連結貸借対照表

(単位:10億円)	平成16年 3月期	平成17年 3月期	前期比
流動資産	165.8	167.7	101.2%
(うち、現預金)	(56.0)	(64.2)	114.6%
固定資産	276.4	259.2	93.8%
総資産	442.2	426.9	96.6%
負債	235.7	218.9	92.9%
(うち、有利子負債)	(134.1)	(121.3)	90.5%
少数株主持分	5.9	2.7	46.7%
資本	200.6	205.3	102.3%
資本金	41.1	41.1	99.9%
剰余金	141.0	146.0	103.6%
その他	18.5	18.3	98.6%
総資産	442.2	426.9	96.6%
ROA	2.5%	3.6%	-

ROA=(経常利益+支払利息)/総資産

資産圧縮と有利子負債の削減進み、
財務健全化がさらに進展。

イソライト工業の非連結化の減少効果
は約60億円。
一方で、設備投資は増加。

社債発行(+230億円)、
社債償還(-198億円)、
借入金純減(-82億)。
イソライトの非連結化の効果大。
(約70億円)

D/Eレシオは 0.67 0.59に。

連結キャッシュフロー計算書

(単位:10億円)	平成16年 3月期	平成17年 3月期	前期比
営業CF	17.6	16.8	95.4%
投資CF	9.6	-0.3	-2.6%
フリーキャッシュフロー	27.2	16.5	60.7%
財務CF	-16.6	-7.8	47.0%
期首現預金残	45.8	55.4	120.9%
期末現預金残	55.4	63.5	114.7%

税前利益	114億円
償却費	126億円

固定資産取得	125億円
有価証券売却	+70億円
固定資産売却	+68億円

社債発行	230億円
社債償還	198億円
借入金純減	82億円

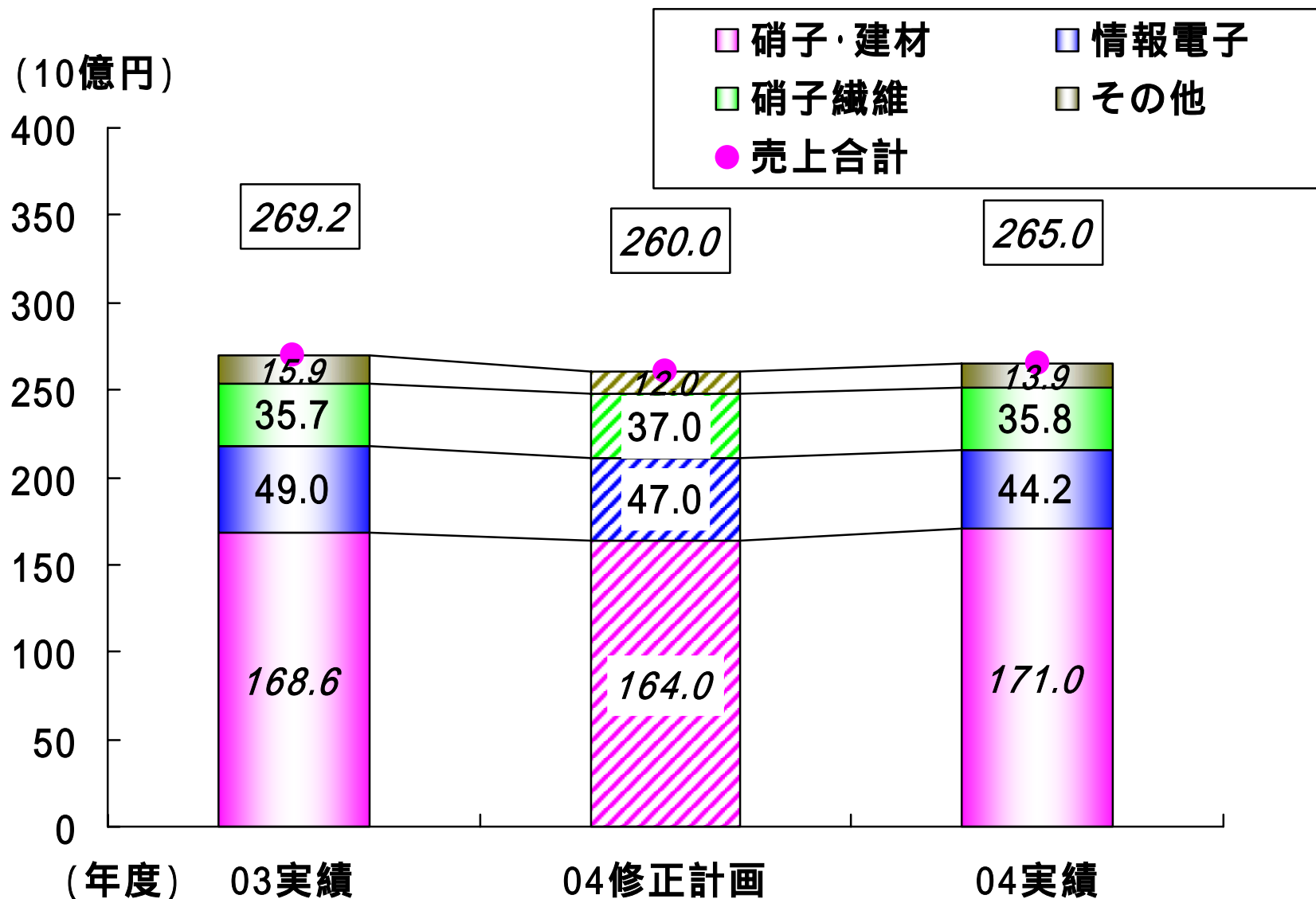
(単位:円)

1株あたり配当金	3.0	6.0	-
----------	-----	-----	---

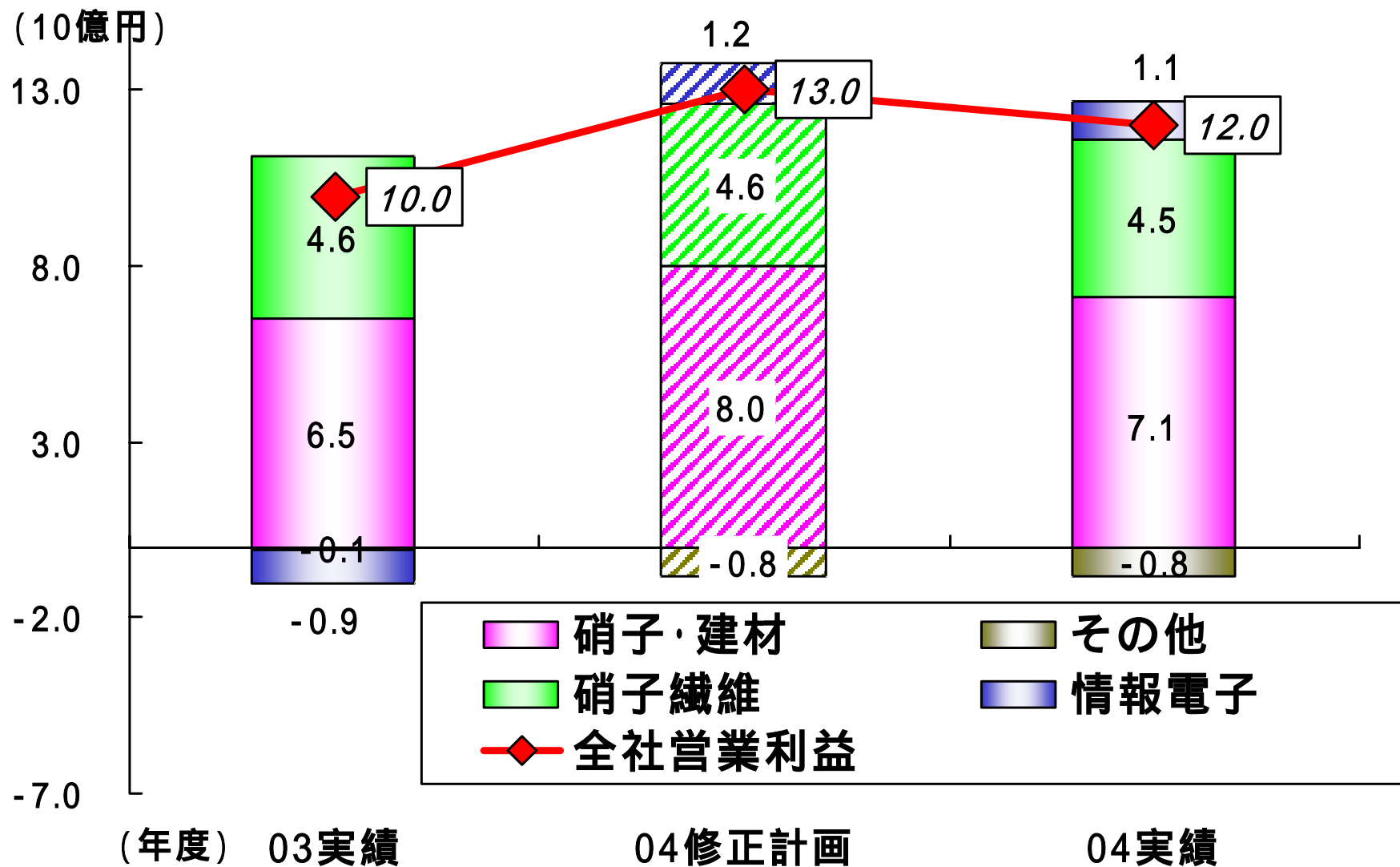
中間配当金を3期ぶりに復活。

セグメント別実績概況

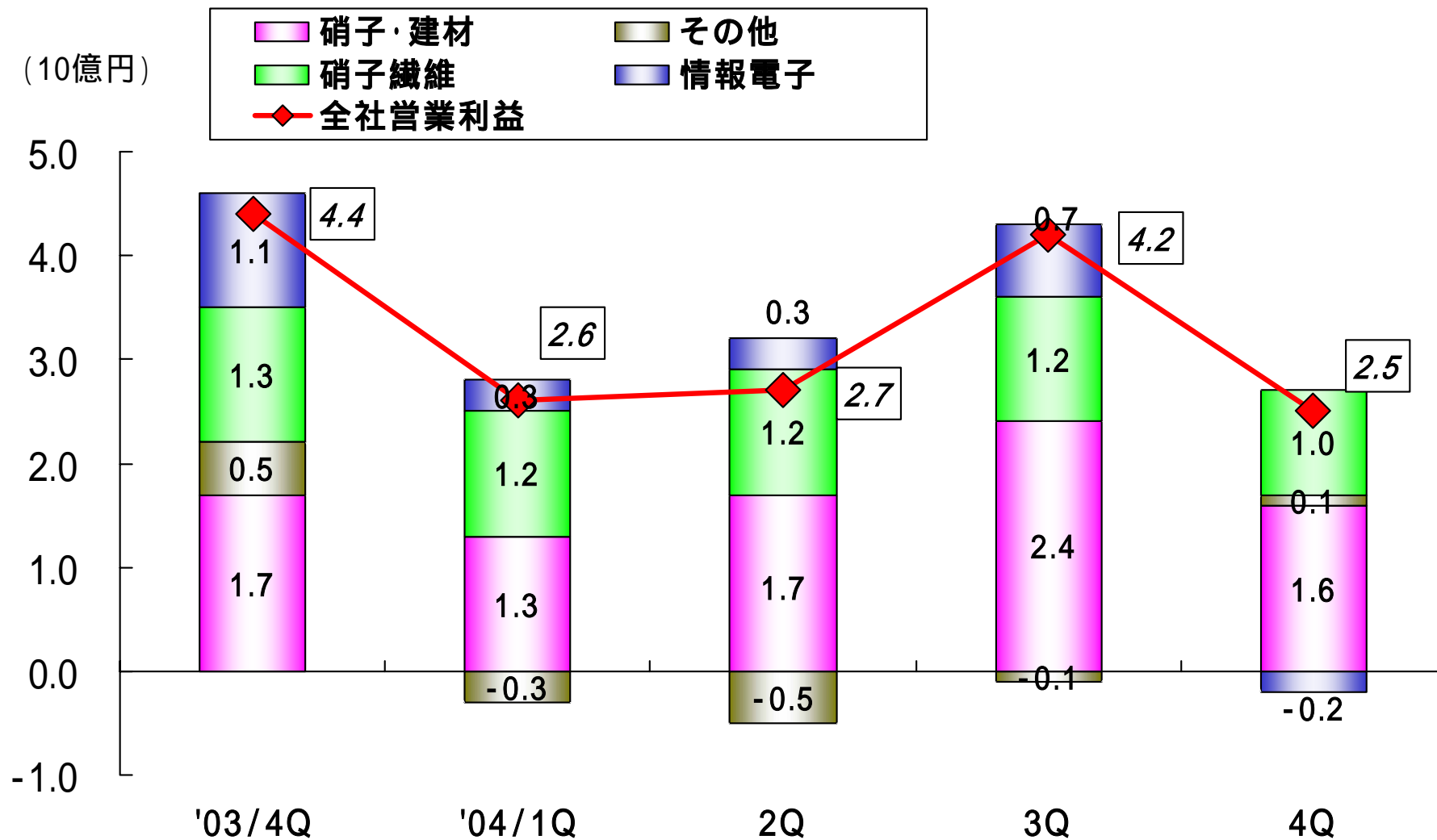
セグメント別 売上高



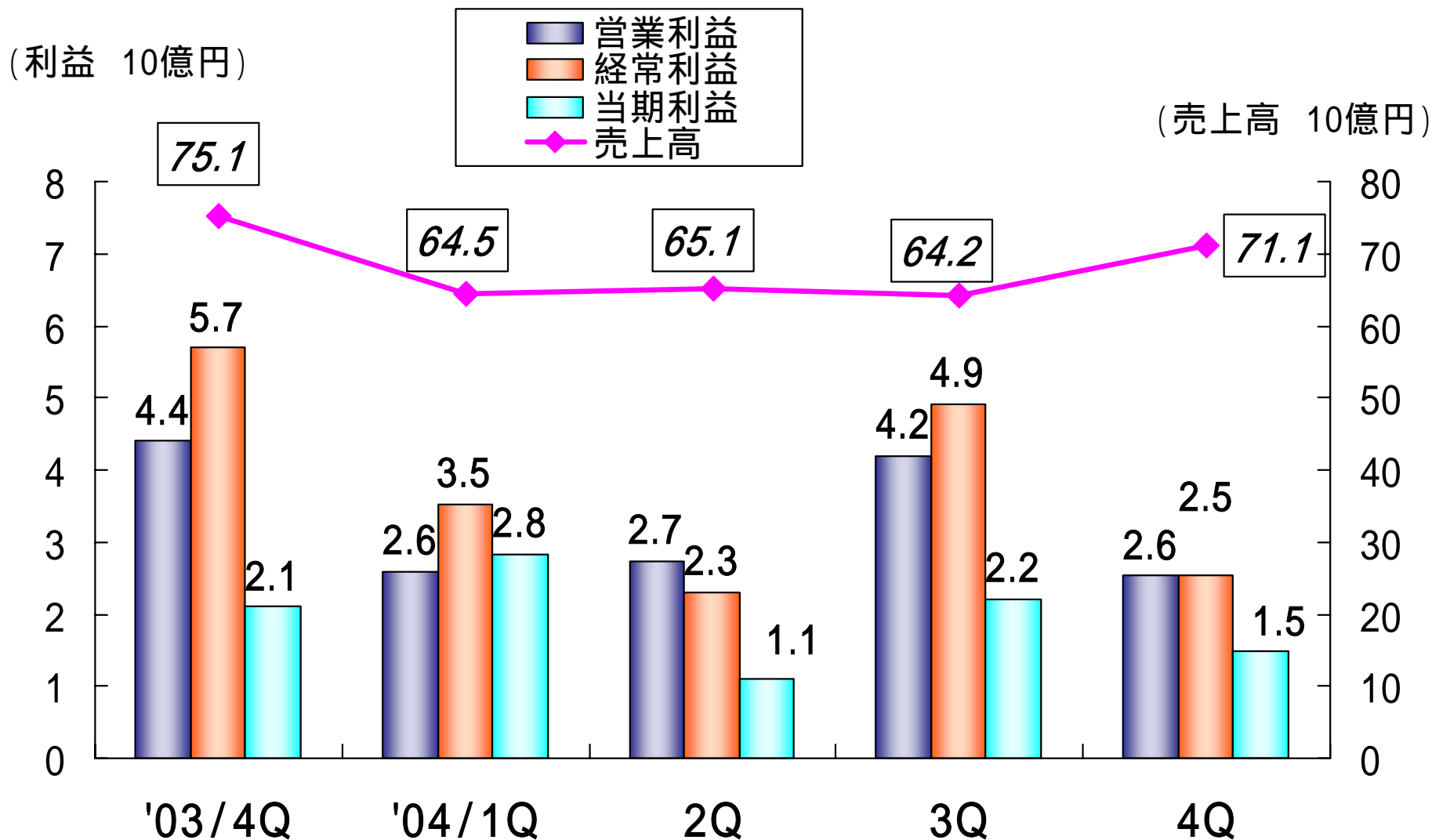
セグメント別 営業利益



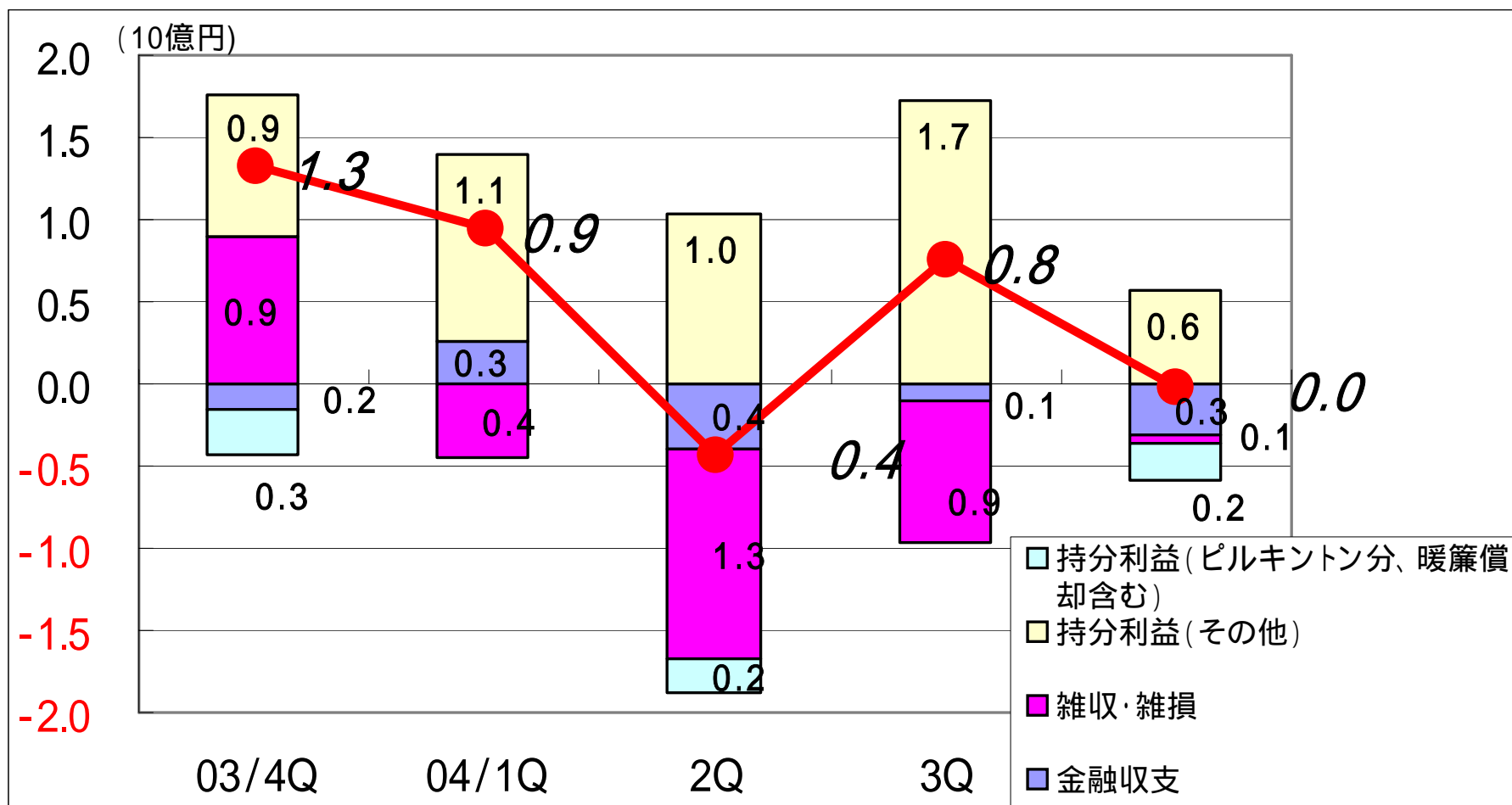
セグメント別 連結営業利益(四半期推移)



2004年度 四半期損益推移



2004年度 営業外損益推移



板ガラス分野 (硝子・建材)



建築用ガラス
(硝子建材事業)

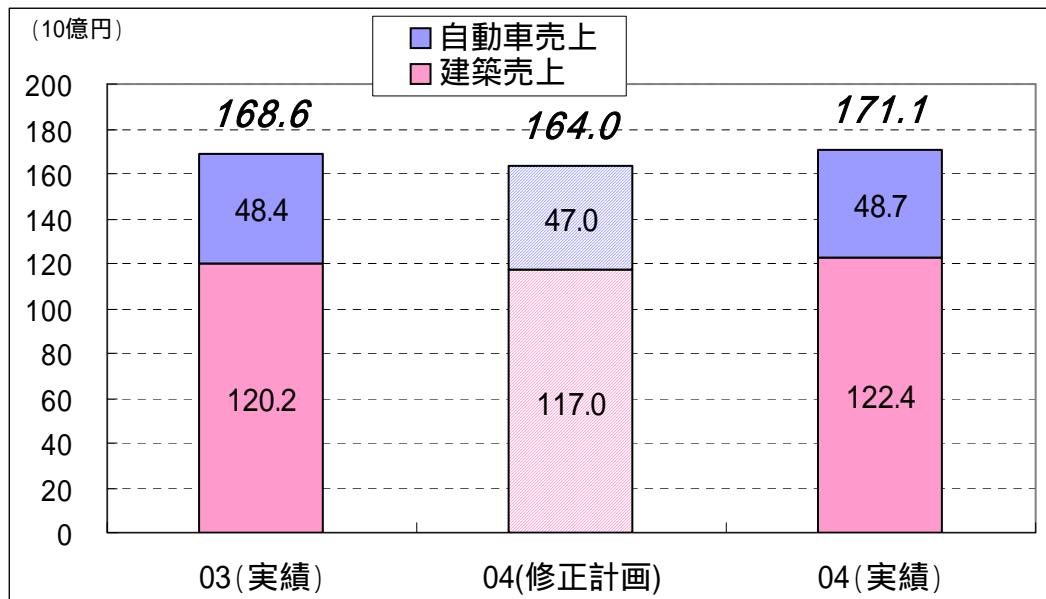
建築用ガラス、建材

自動車用ガラス
(輸送機材事業)

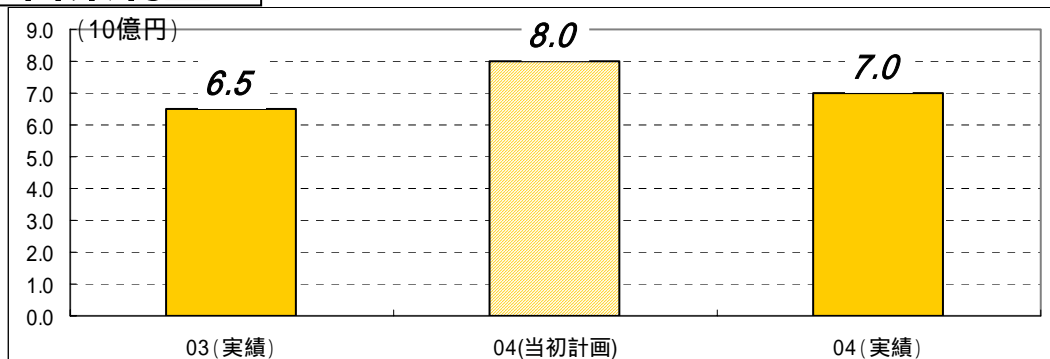
自動車用ガラス
各種車両用ガラス

< 板ガラス分野 > 売上、営業利益推移

売上



営業利益



04年度実績コメント

・建築分野

(国内)

- ・売上は新築着工増、付加価値商品の拡大によりプラス。
- ・利益面では、売上増、コストダウンは予定どおり進捗したが、原燃材料アップは価格転嫁でカバーしきれず。

(海外)

- ・天津フロート譲渡の影響(約30億円)あるも、他の地域が好調に推移。

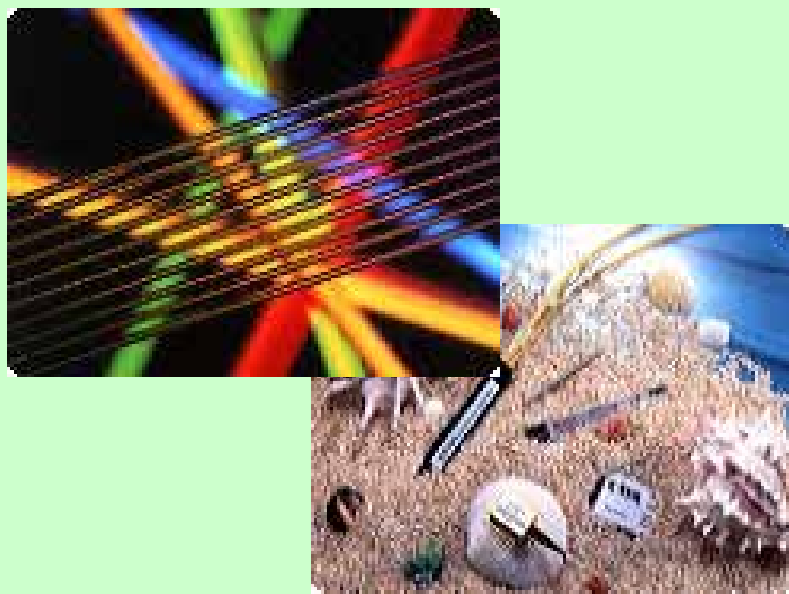
・自動車分野

- ・04年度は原燃材料コスト上昇を吸収しきれず、減益。

情報電子分野

情報通信デバイス

SLA、SLED、化学強化ガラス他
OA機器用部品
セルフオックマイクロレンズ、
各種通信用デバイスなど

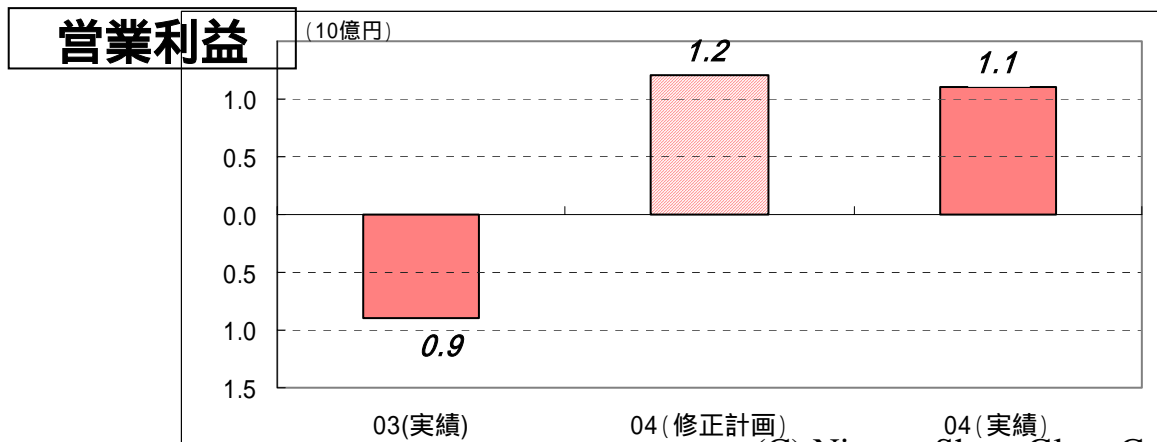
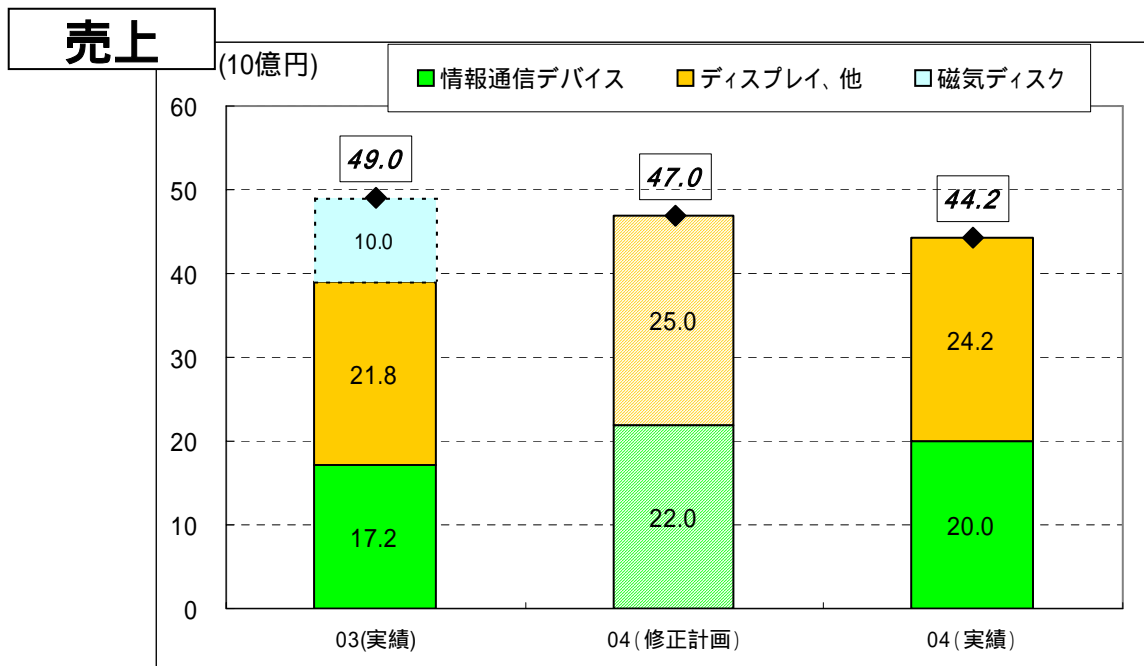


ディスプレイ

液晶用基板、PDP基板など



< 情報電子分野 > 売上、営業利益推移



04年度実績コメント

磁気ディスク事業譲渡(約100億円)、日本ペルノックス社譲渡(約20億円)の影響により、全体の売上は、前年比マイナスだが、これを除くと、+52億円(13%増)。

情報通信デバイス

- ・光通信は回復ペース鈍い。
- ・プリンター用光部品はMFP向けに出荷好調に推移。

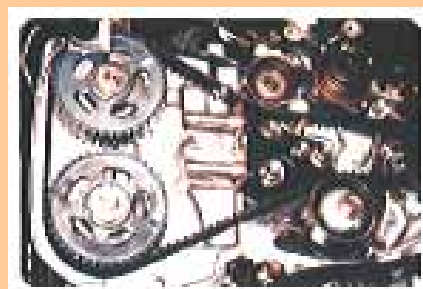
ディスプレイ、その他

- ・UFFを中心に前年比大幅に増加。下期以降ペースダウンしているが、4Qが需要の底と見る。

ガラス繊維分野

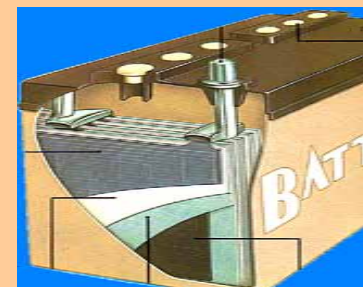
ゴムコード

自動車用タイミングベルト



バッテリーセパレータ

自動車、無停電装置などの鉛蓄電池



フレイク他

耐食、プラスチック強化材
光輝性顔料素材



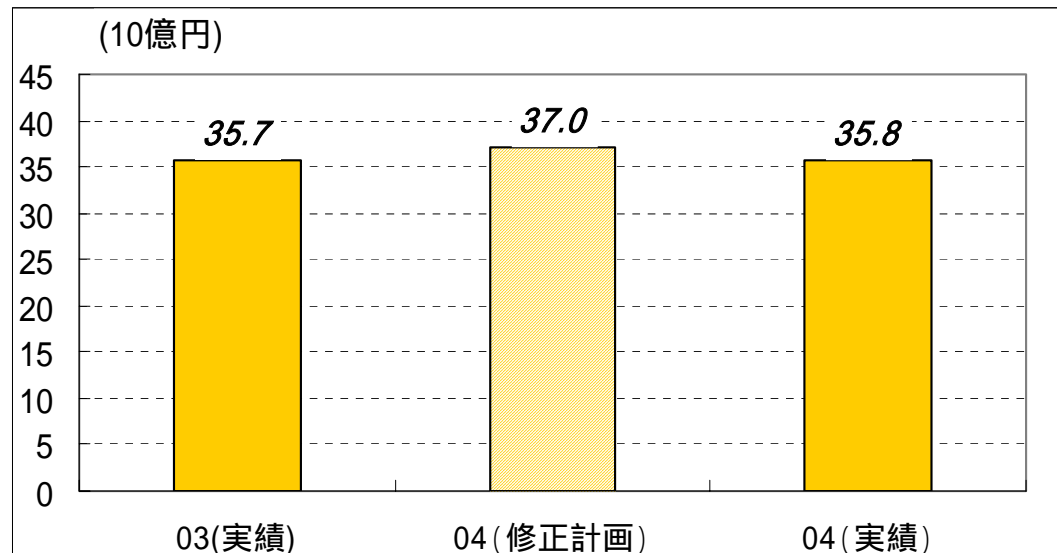
フィルター

クリーンルーム用など

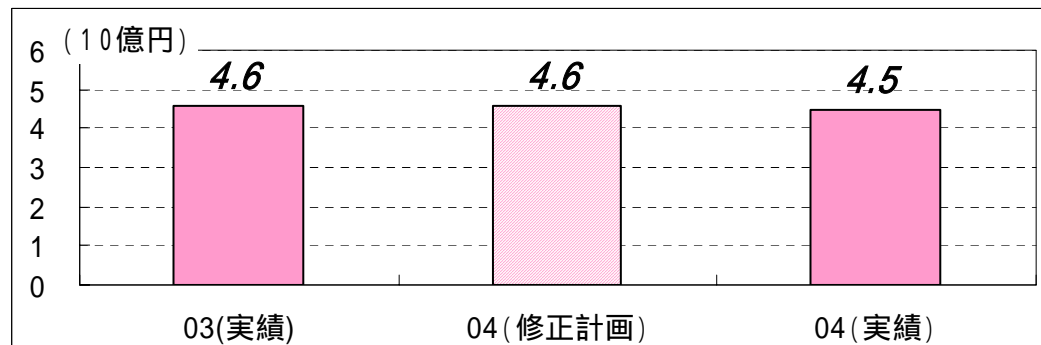


< ガラス繊維分野 > 売上、営業利益推移

売上



営業利益



04年度実績コメント

ゴムコード

- ・欧州向けを中心に好調。

フレーク、メタシャイン

- ・海外プラント向け耐食用フレークが好調。
- ・メタシャインは04年度は踊り場。

エアフィルタ

- ・半導体、液晶工場向け好調。
- 下期以降、ペースダウン。

バッテリーセパレータ

- ・下期以降、競争激化で価格下落。

中期経営計画「CCP300」と 今年度の事業方針、見通しについて

CCP300 

(2005 ~ 2007年度)

新中期計画「CCP300」

長期目標の中での位置づけ

中期計画は“New Vision”達成へのマイルストーン。

リストラによる収益改善に目処。
 今後は、成長商品による成長軌道へ。

New Vision 2010年の姿
 - 勝ち組に生き残るために -

売上規模 5000億円
 経常利益 500億円
 ROA, ROE 10%以上

2008-2010

2005-2007
 新中期計画
 「CCP300」

2001-2004
 ACT21

1st Stage 2001-2002	2nd Stage 2003-2004
------------------------	------------------------

目指す方向

- ・既存事業の再強化
- ・独自の技術・新商品・新分野の育成

拡大成長を目指す“New Vision”路線への完全回帰

新中期計画「CCP300」

ACT21(2001～2004) 総括

1. 事業環境

ITバブルの崩壊等、期初からの事業の前提の激変。

マーケット情報不足によるアクションの遅れ

2. 対処

事業構造の見直しによる資産圧縮、リストラ
不採算事業からの撤退、選択と集中
成長への布石

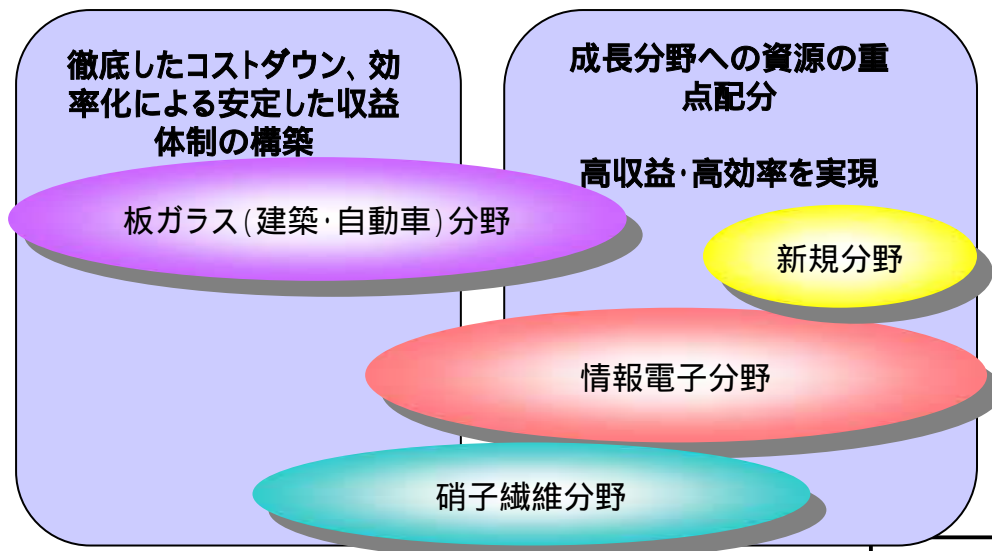
経常赤字転落から1990年レベルの利益回復へ

3. 今後生かしていける点

バランスシート改善
人材含むリソースの集中投入
ニュービジネス、新事業創生のベース
ガバナンス強化による監督・執行の責任明確化

新中期計画「CCP300」

基本戦略

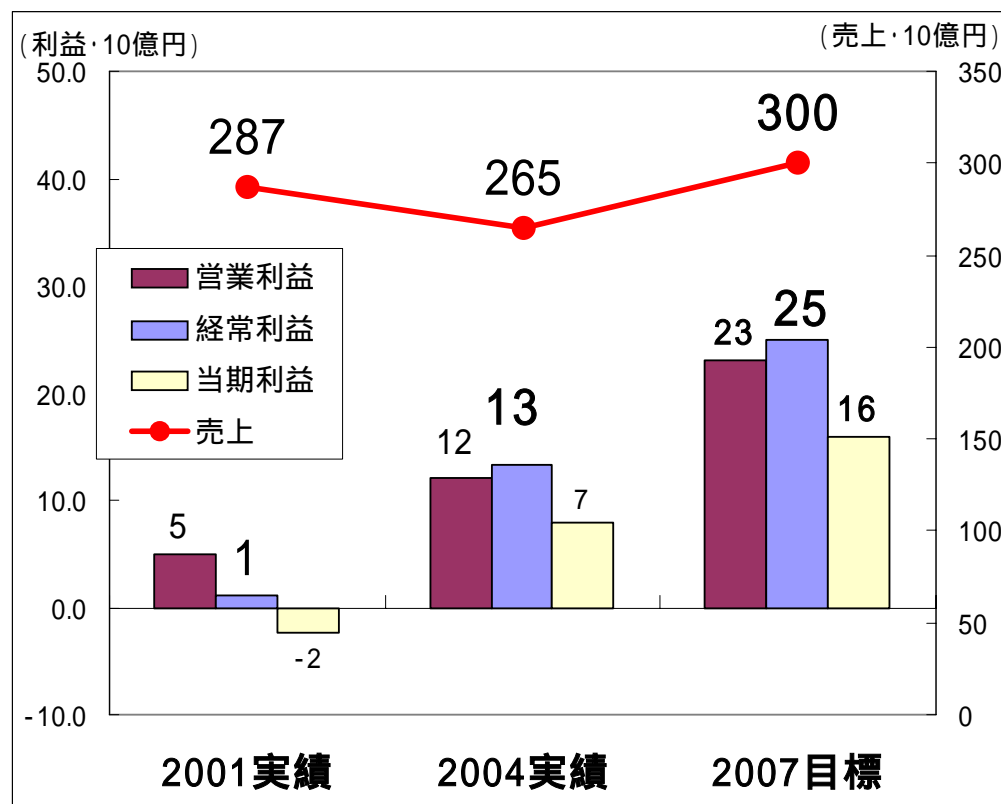


重点課題のシフト

ACT21	新中計
成長への布石	成長事業の拡大
ニュービジネス創設	ニュービジネス拡大
	海外事業強化
不採算事業の撤退	
選択と集中	現場強化による収益改善

新中期計画「CCP300」

業績目標まとめ



(10億円)	2004年度	2007年度
売上	265.0	300.0
板ガラス	171.0	182.0
情報電子	44.2	72.0
ガラス繊維	35.8	40.0
その他	13.9	6.0
営業利益	12.0	23.0
板ガラス	7.1	12.0
情報電子	1.1	7.0
ガラス繊維	4.5	5.0
その他	-0.8	-1.0
経常利益	13.4	25.0
当期利益	7.8	16.0

ROA,ROE とも6%台に

「CCP300」と今年度の事業方針について

取り組み方針

CCP300

製造・開発・販売の現場を重視した、 ものづくりに強い会社

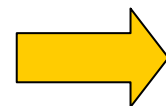
匠の技によるつくりこみ、品質向上
先端技術へのあくなき挑戦

- ・資源配分の製造現場への重点化
(短期集中)
- ・骨太の技術者の育成・基盤技術の
構築・技術技能の伝承

2005年度

中計初年度として土台作り

1. 資源配分の製造現場への重点化
～ スタッフ部門からライン部門への
技術者の人員配置換え
(ライン技術者 3割アップ)
2. 骨太の技術者の育成・技術技能の伝承、
レベルアップ
～ 「技術道場」による技術者レベルアップ
～ 現場での技能、スキルの教育強化



品質・生産性の早期強化

板ガラス分野 (硝子・建材)



建築用ガラス
(硝子建材事業)

建築用ガラス、建材

自動車用ガラス
(輸送機材事業)

自動車用ガラス
各種車両用ガラス

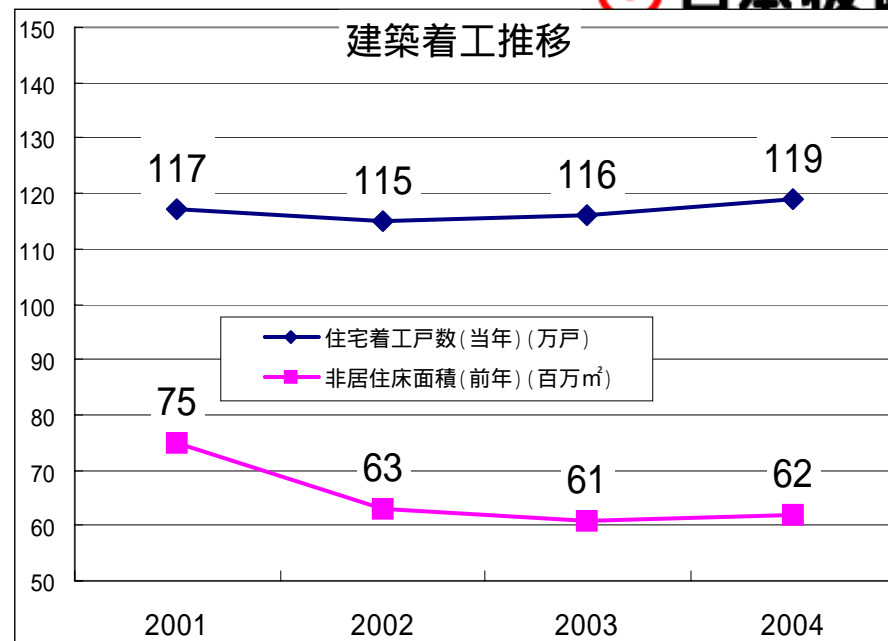
板ガラス分野

< 建築用ガラス >

事業環境

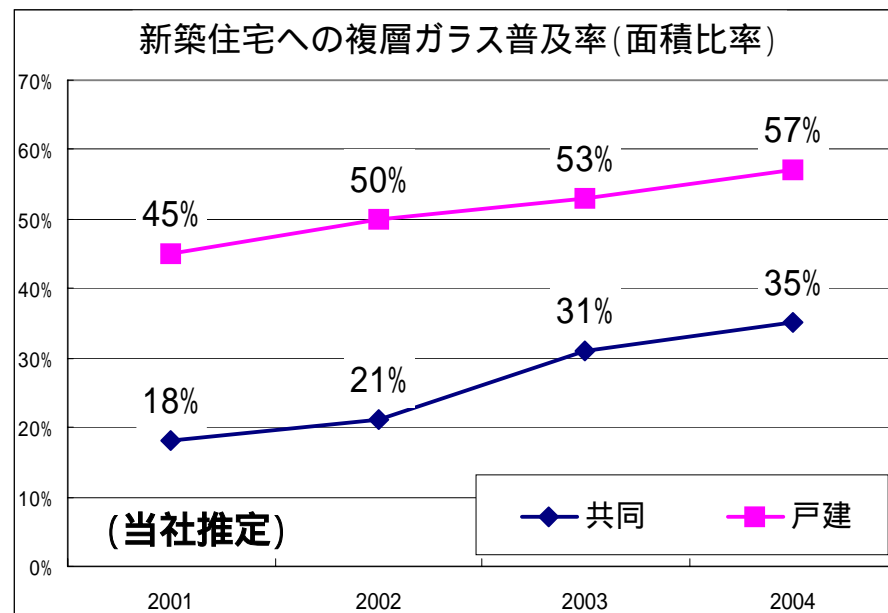
建築着工推移

04年の住宅着工は駆け込み需要もあり
堅調。非居住(ビル)はほぼ横ばい。



複層ガラス普及率

- ・戸建、共同住宅とも新築普及率は堅調な伸び。
- ・既存住宅での普及率は、海外に比べ依然低い。

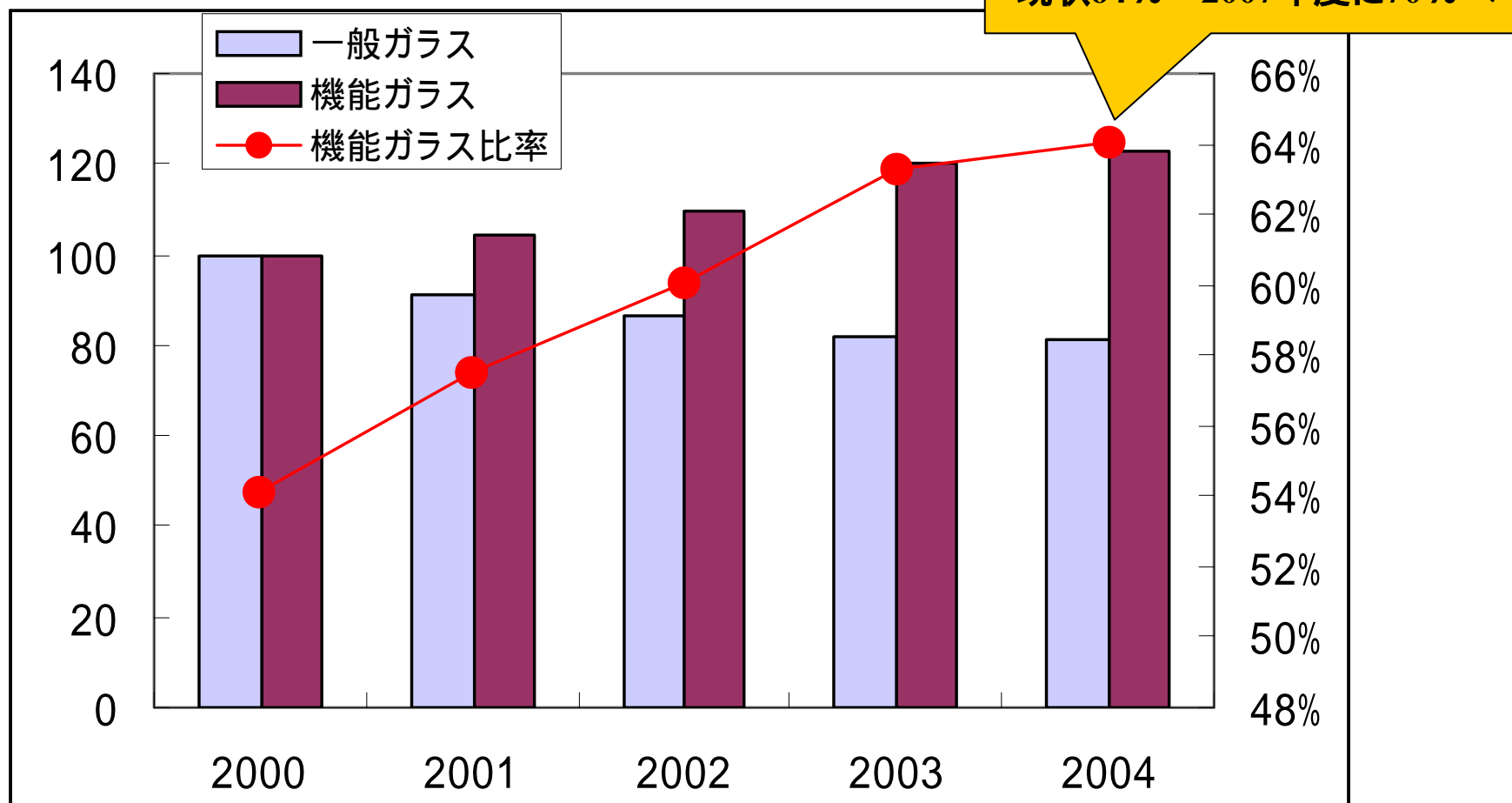


板ガラス分野

< 建築用ガラス >

当社出荷の国内建築用ガラスの品種動向(金額)

(2000 = 100)



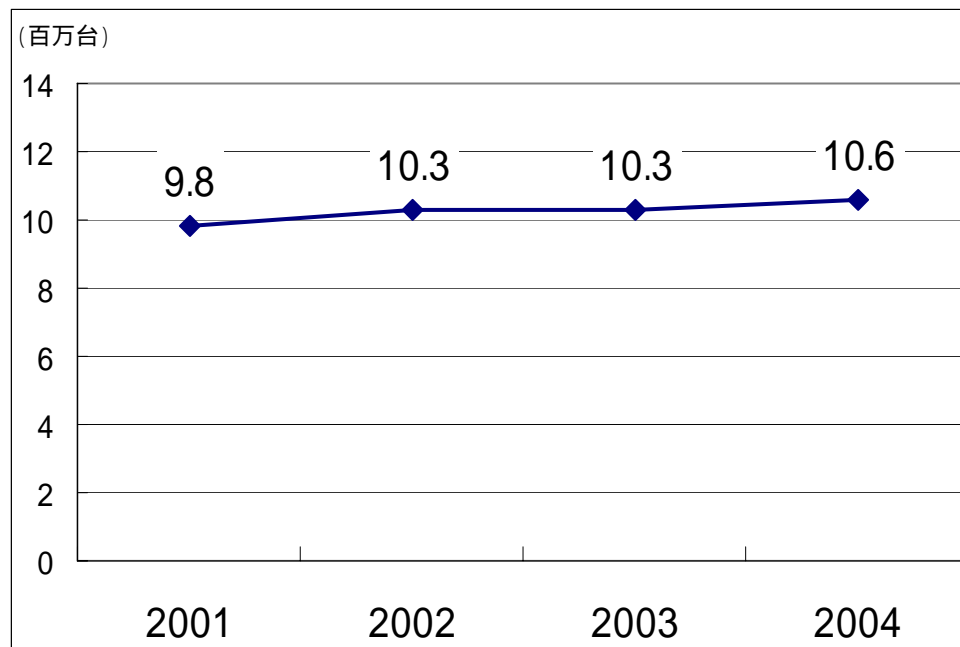
板ガラス分野

< 自動車用ガラス >

事業環境

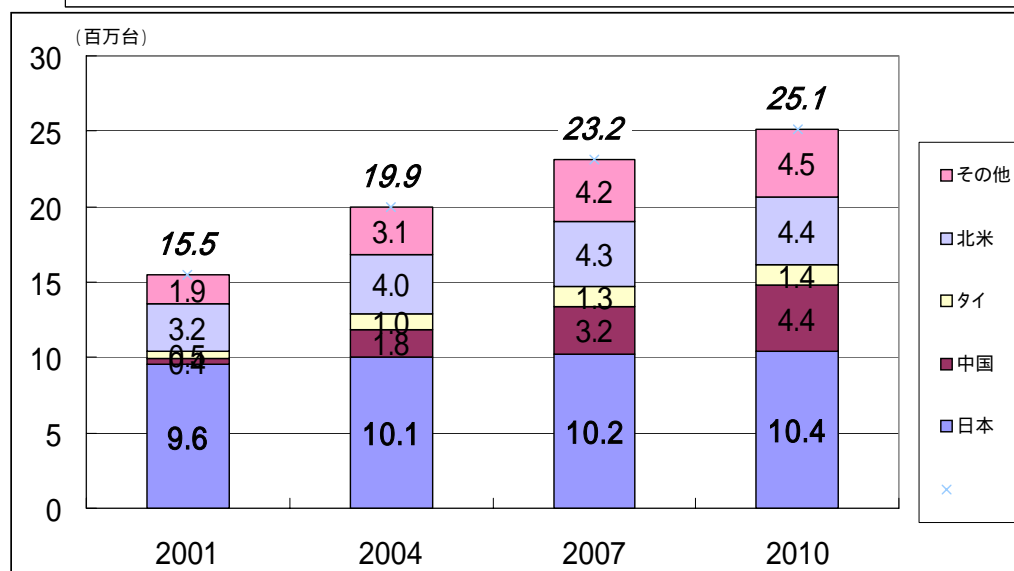
国内自動車生産台数

- ・堅調な国内需要と輸出向けで国内生産は前年比やや増加。



日系自動車メーカーが発注権を持つ車種の生産台数予測

- ・海外現地生産の拡大で全世界ベースで大きく増加。



板ガラス分野

事業別方針

CCP300

< 建築用ガラス >

- ・国内 機能ガラス 1の地位確立
断熱・防犯・リフォーム等成長分野で拡大
複合機能化
太陽電池基板拡大
- ・アジア 利益極大化のためのグループ
シナジー活用
ベトナム、マレーシアでの 1を維持
～マレーシア 05年 休止窯再稼動、
ベトナム 07年 新窯稼動
国内での活用を視野

< 自動車用ガラス >

- ・高付加価値品の拡大と、生産革新による
コスト改善
- ・設備更新による生産性向上
- ・ピルキントンとのシナジーの最大化
- ・中国市場への参入 (数値目標は未織込み)

2005年度

< 建築用ガラス >

- ・国内
機能ガラスは新商品を中心に続伸。
(防犯ガラス生産能力 今期倍増、
太陽電池基板ガラスの伸び期待)
- ・重点商品の分野別販売活動強化
(プレハブ(パナホーム)、
店舗(セブンイレブン等)への需要)
- ・リフォーム需要開拓を組織化
(CS営業体制強化など)
- ・アジア マレーシア 予定通り2窯体制
ベトナム新窯 建設準備に。

< 自動車用ガラス >

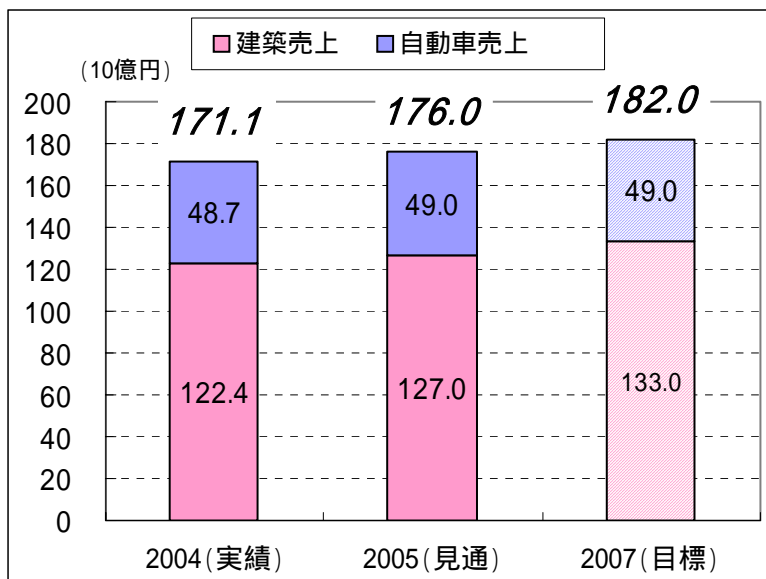
- ・愛知工場閉鎖、機能集約化。
- ・設備更新による生産性向上
- ・IRカットなど、新商品の生産拡大

板ガラス分野

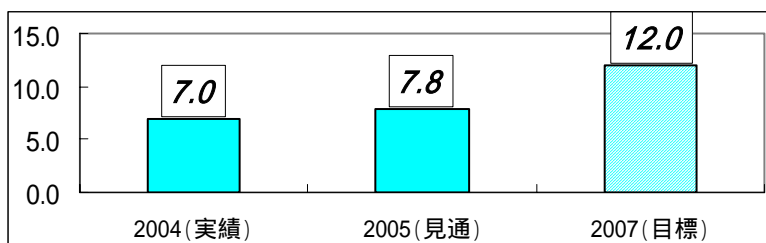
業績予想

売上

年度推移



営業利益

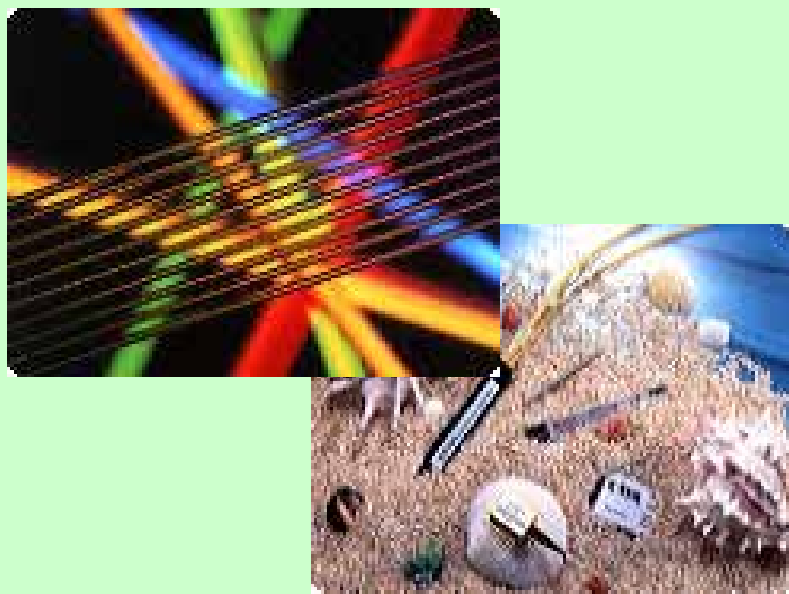


	<04実績>	<05見通>
売上		
建築	1,224億	1,270億(+46億,+3.8%)
自動車	487億	490億 (+3億,+0.6%)
合計	1,711億	1,760億(+49億,+2.9%)
営業利益	70億	78億 (+8億,+11.4%)
営業利益率	4.1%	4.4% (+0.3%)

情報電子分野

情報通信デバイス

SLA、SLED、化学強化ガラス他
OA機器用部品
セルフオックマイクロレンズ、
各種通信用デバイスなど



ディスプレイ

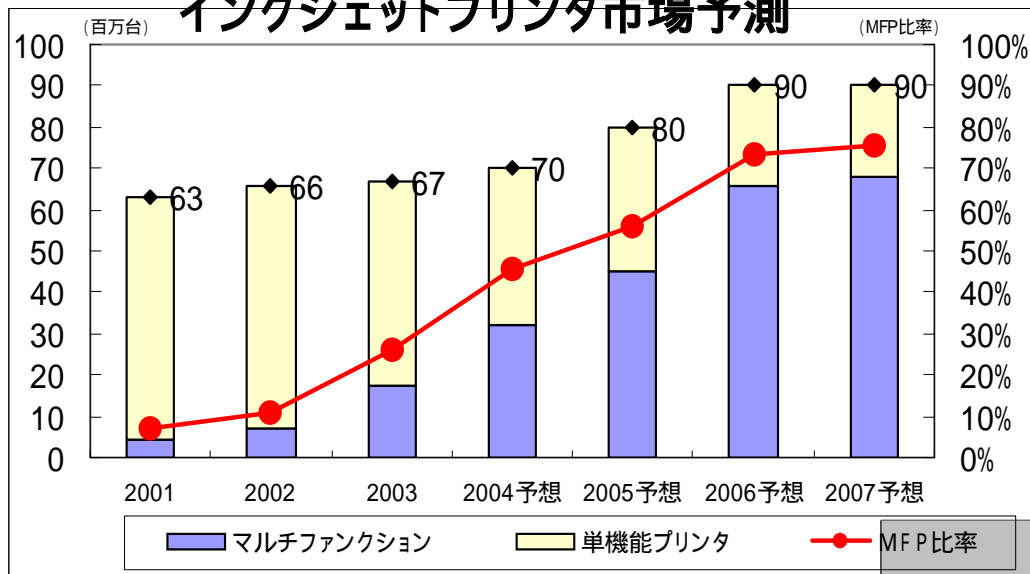
液晶用基板、PDP基板など



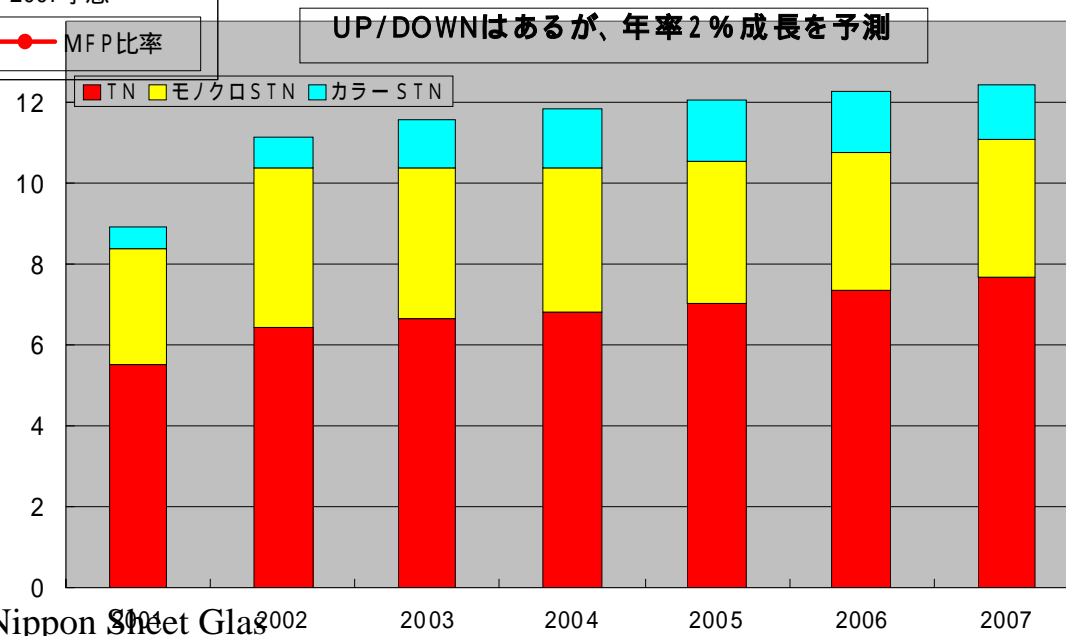
情報電子分野

事業環境

インクジェットプリンタ市場予測

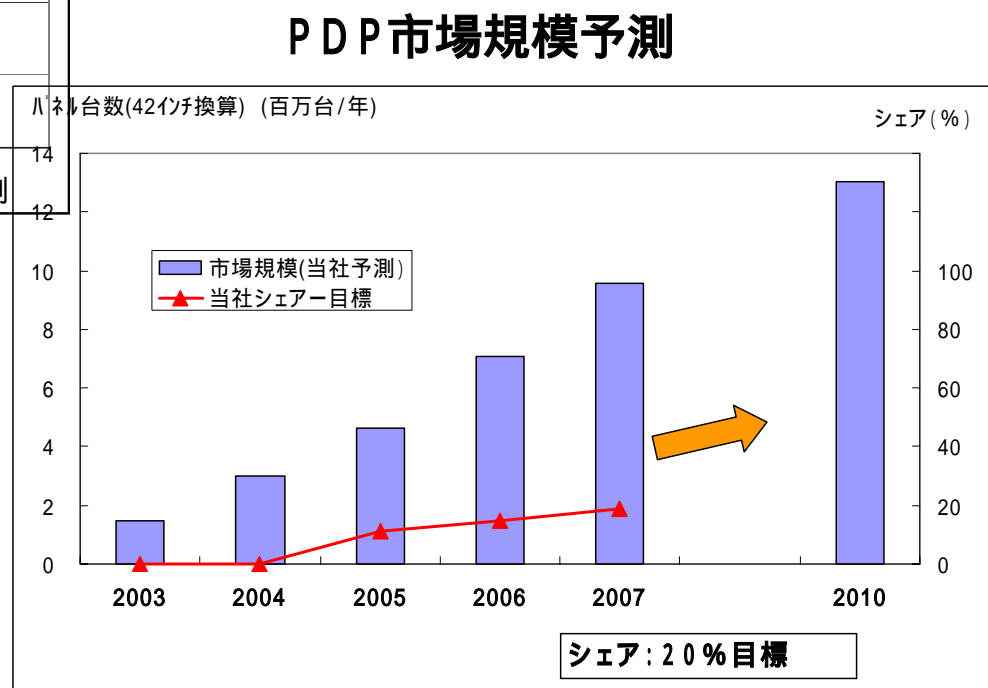
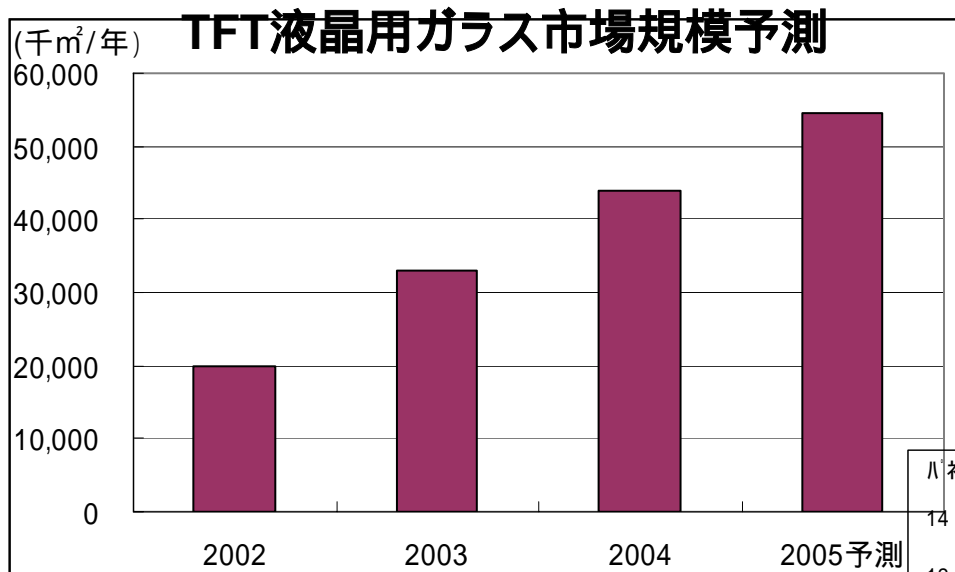


パッシブ液晶 種類別数量予測



情報電子分野

事業環境



情報電子分野

事業別方針

CCP300

< 情報通信デバイス >

情報デバイス

レンズ・光源でドキュメント市場を制覇する。

通信デバイス

セルフロックの強みを活かし、コンポーネント市場においてもキープレイヤーとなる。

(短期的には早期採算化)

< ディスプレイ >

- ・PDP 基板ガラス参入
- ・TFT基板ガラス生産拡大
- ・アクティブ領域関連ビジネス拡大
- ・UFF 量、シェアとも向上

2005年度

< 情報通信デバイス >

情報デバイス

- ・MFP向けSLA増産 4百万個体制確立。

市場の伸びに従い、3割増。

- ・セルガイドは競争が次第に激化。

- ・SLED(現状品) 数量伸長。

(開発品) 今期計画には、いれず。

通信デバイス

- ・北米アクセス向け通信コンポーネンツ

下期以降販売本格化

赤字縮小 単月黒字化を狙う。

< ディスプレイ >

- ・PDP基板へ参入。下期以降出荷拡大

(ただし初年度は償却負担増)

- ・パッシブ液晶市況は7～9月期までに回復。

UFFシェア拡大

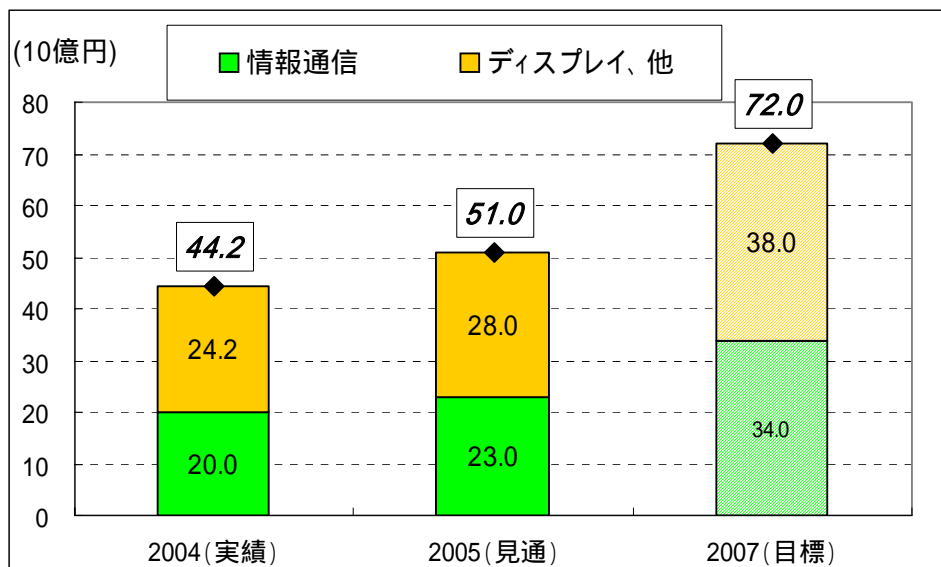
- ・TFTアセンブリ増加(ナノックス)

情報電子分野

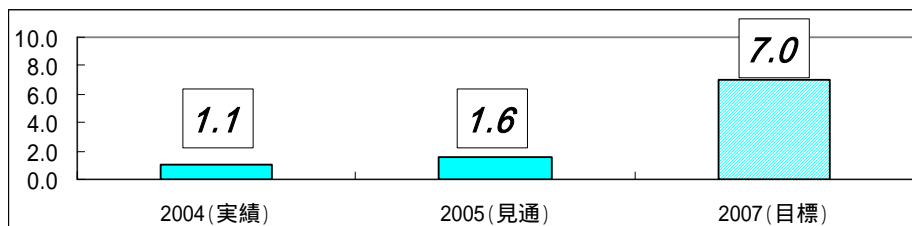
業績予想

年度推移

売上



営業利益



<04実績> <05見通>

売上

情報通信デバイス

200億 230億(+30億,+15.0%)

ディスプレイ他

242億 280億 (+38億,+15.7%)

合計

442億 510億(+68億,+15.4%)

営業利益

11億 16億 (+5億,+45.5%)

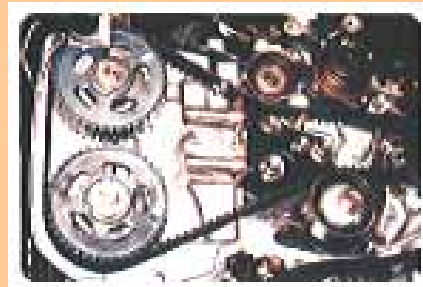
営業利益率

2.6% 3.1% (+0.6%)

ガラス繊維分野

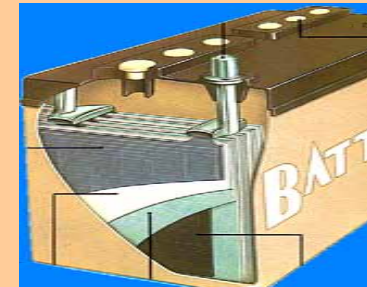
ゴムコード

自動車用タイミングベルト



バッテリーセパレータ

自動車、無停電装置などの鉛蓄電池



フレイク他

耐食、プラスチック強化材
光輝性顔料素材



フィルター

クリーンルーム用など



ガラス繊維分野

事業別方針

CCP300

<ゴムコード>

自動車生産増が寄与

<バッテリーセパレータ>

アジアでのシェアUP

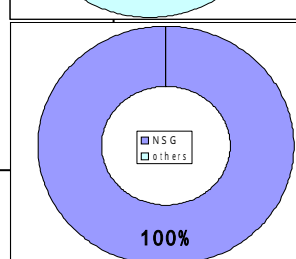
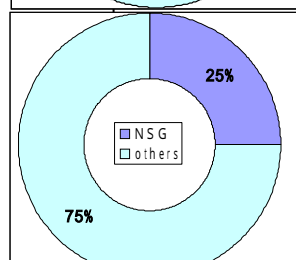
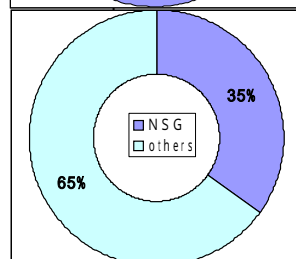
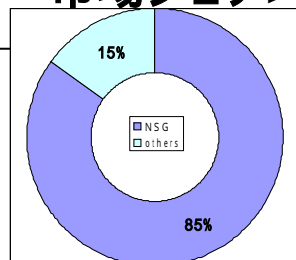
<フィルタ>

医療分野他への展開

<フレーク>

アプリケーション拡大

<市場シェア>



2005年度

業績

・全体としては、売上、利益ともほぼ横ばい。

<ゴムコード>

欧州、中国向けなどで引き続き好調。
中国(蘇州)拠点を立ち上げ準備。

<バッテリーセパレータ>

国際競争激化で、厳しい事業環境。
売価ダウンで苦戦。
コストダウンと最適生産体制の確立。

<フィルタ>

半導体製造向け需要は
一服。新用途と交換需要開拓を強化。

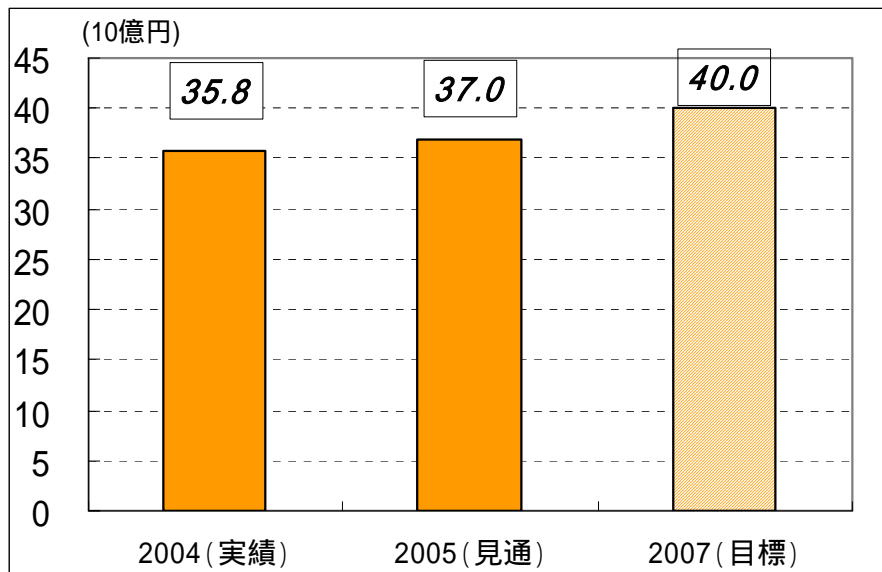
<フレーク>

メタシャインなど、新商品を強化。

ガラス繊維分野

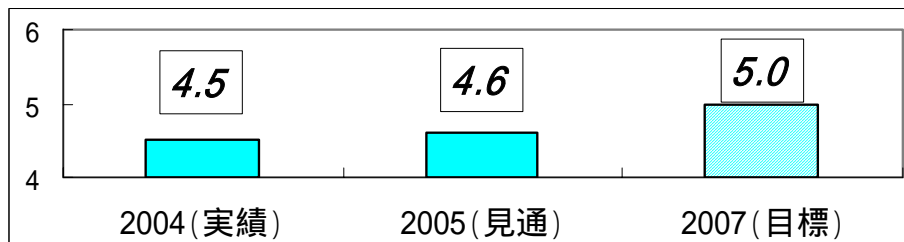
業績予想

売上



<04実績>	<05見通>
売上 358億	370億(+12億,+3.4%)
営業利益 45億	46億 (+1億,+2.2%)
営業利益率 12.7%	12.4% (-0.3%)

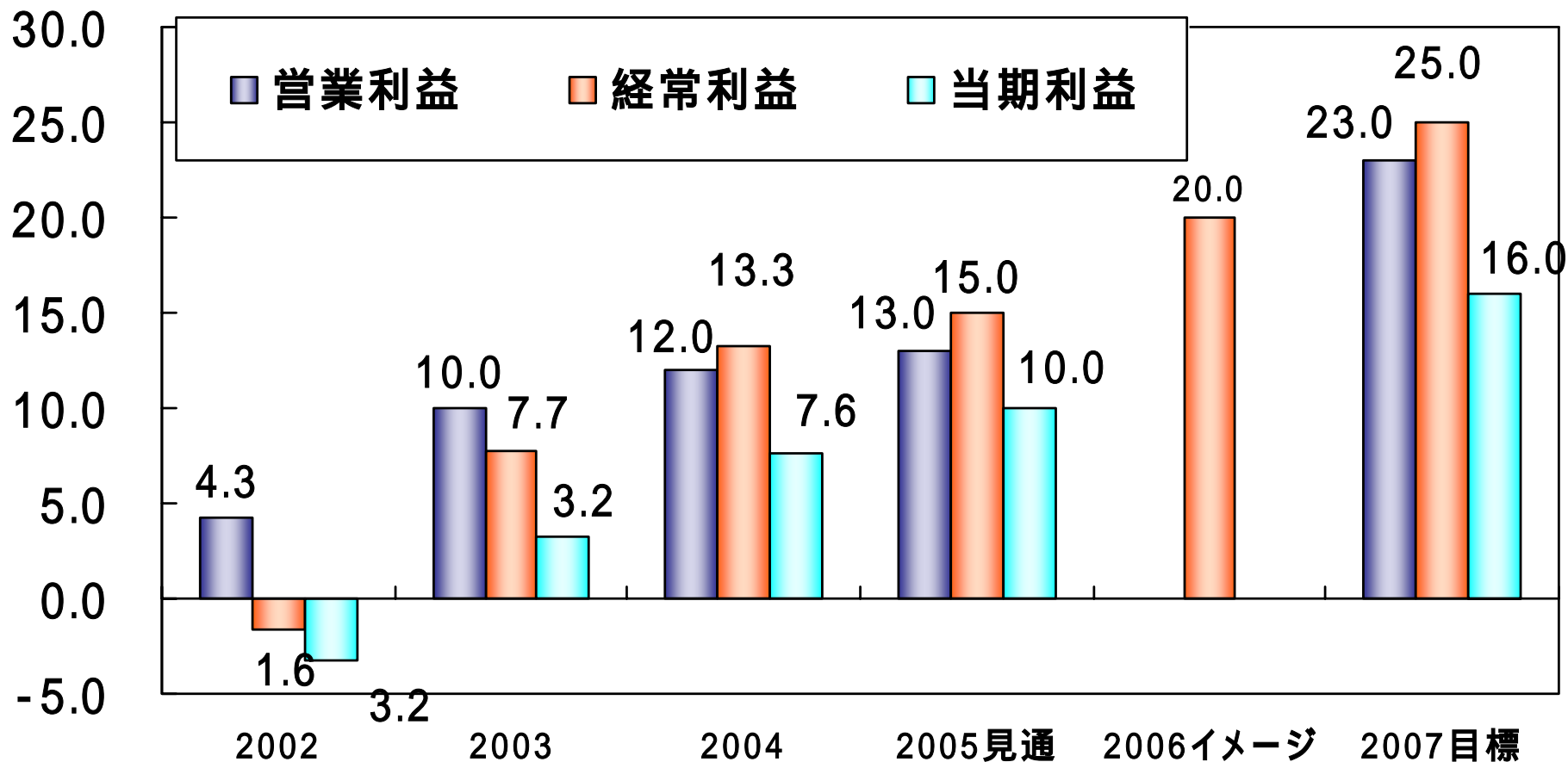
営業利益



全社まとめ

連結損益推移

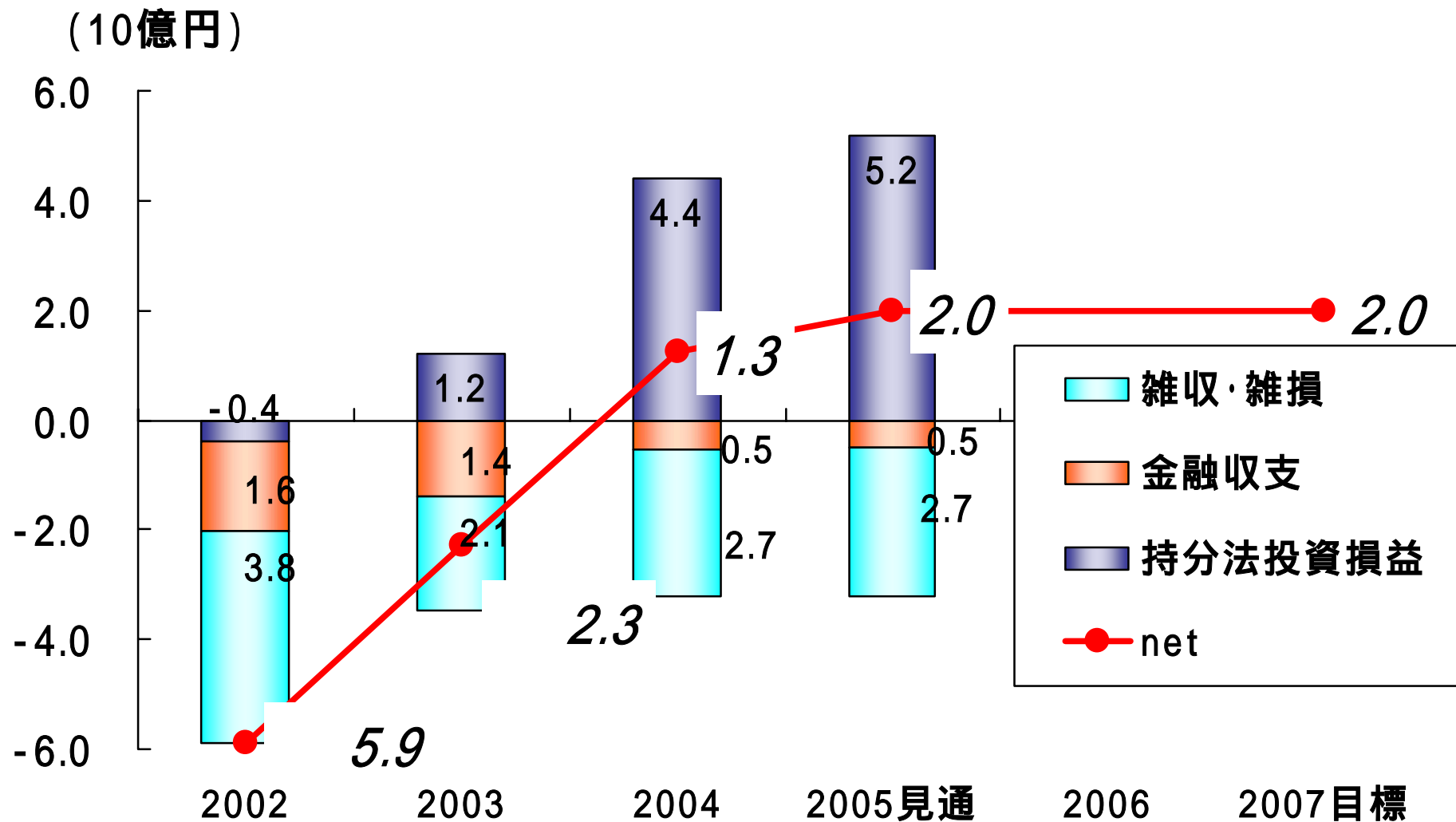
(10億円)



今期経常利益見通しは、CCP300の線上

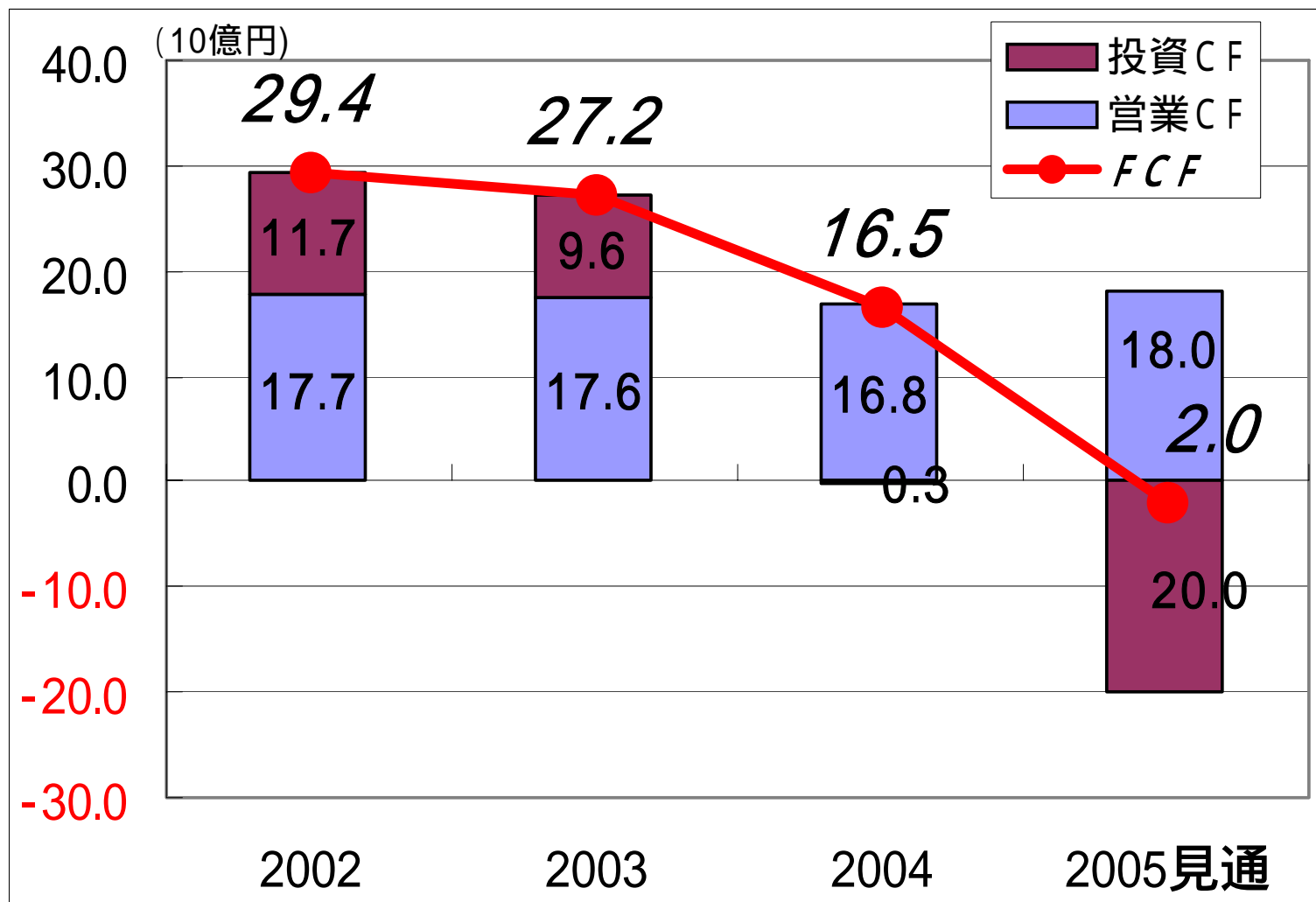
全社まとめ

営業外損益推移



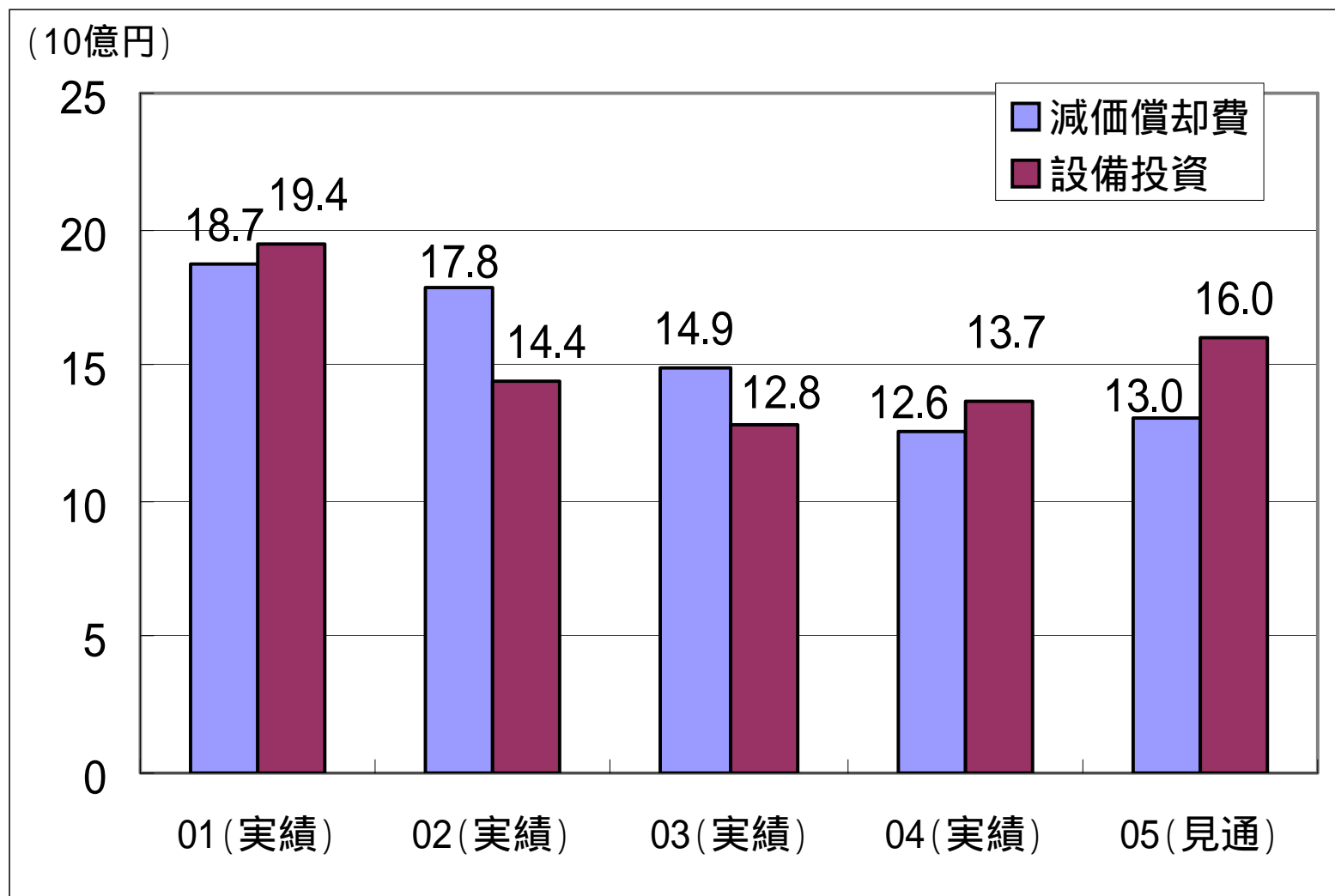
全社まとめ

キャッシュフロー推移

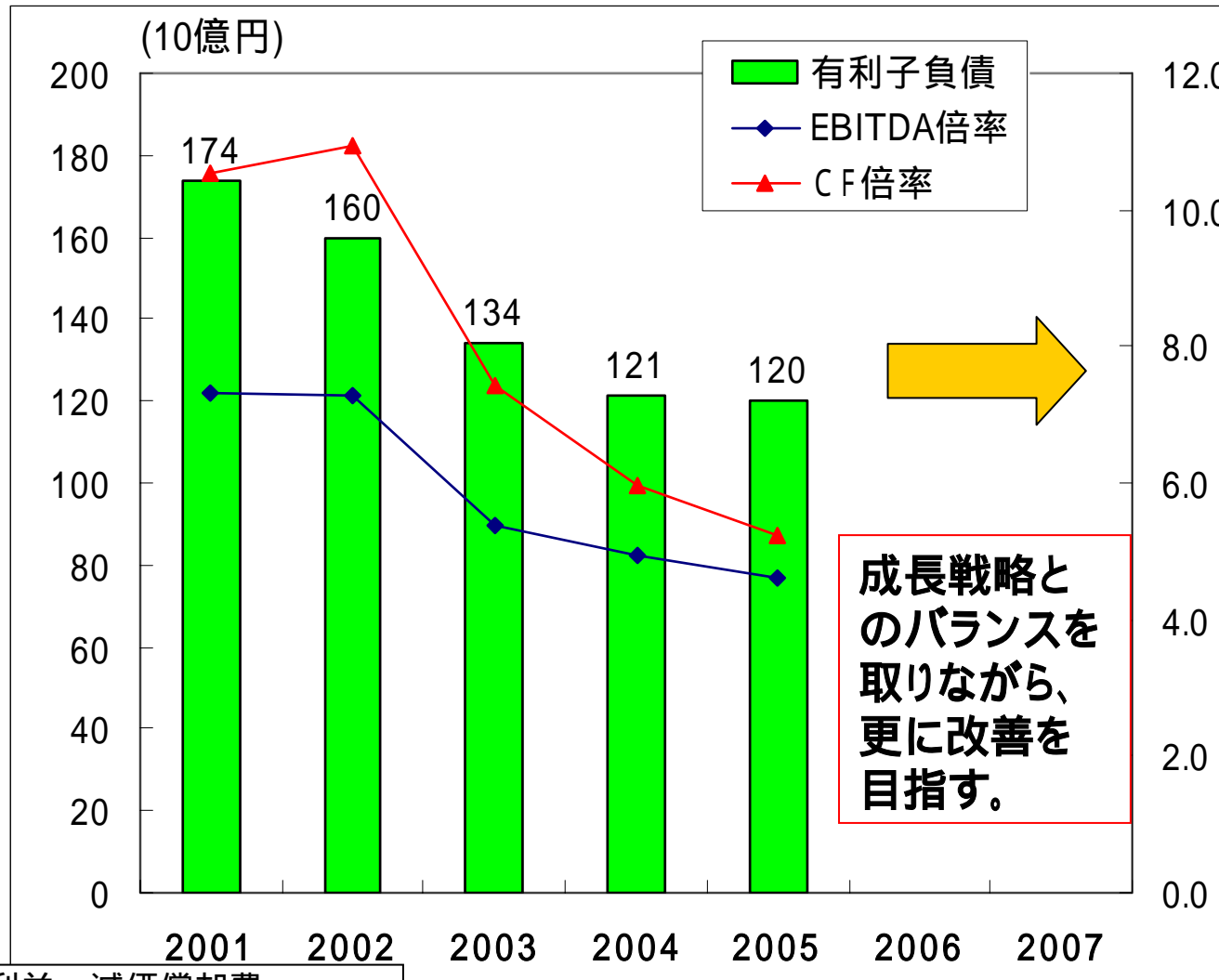


全社まとめ

設備投資、償却費推移



有利子負債推移



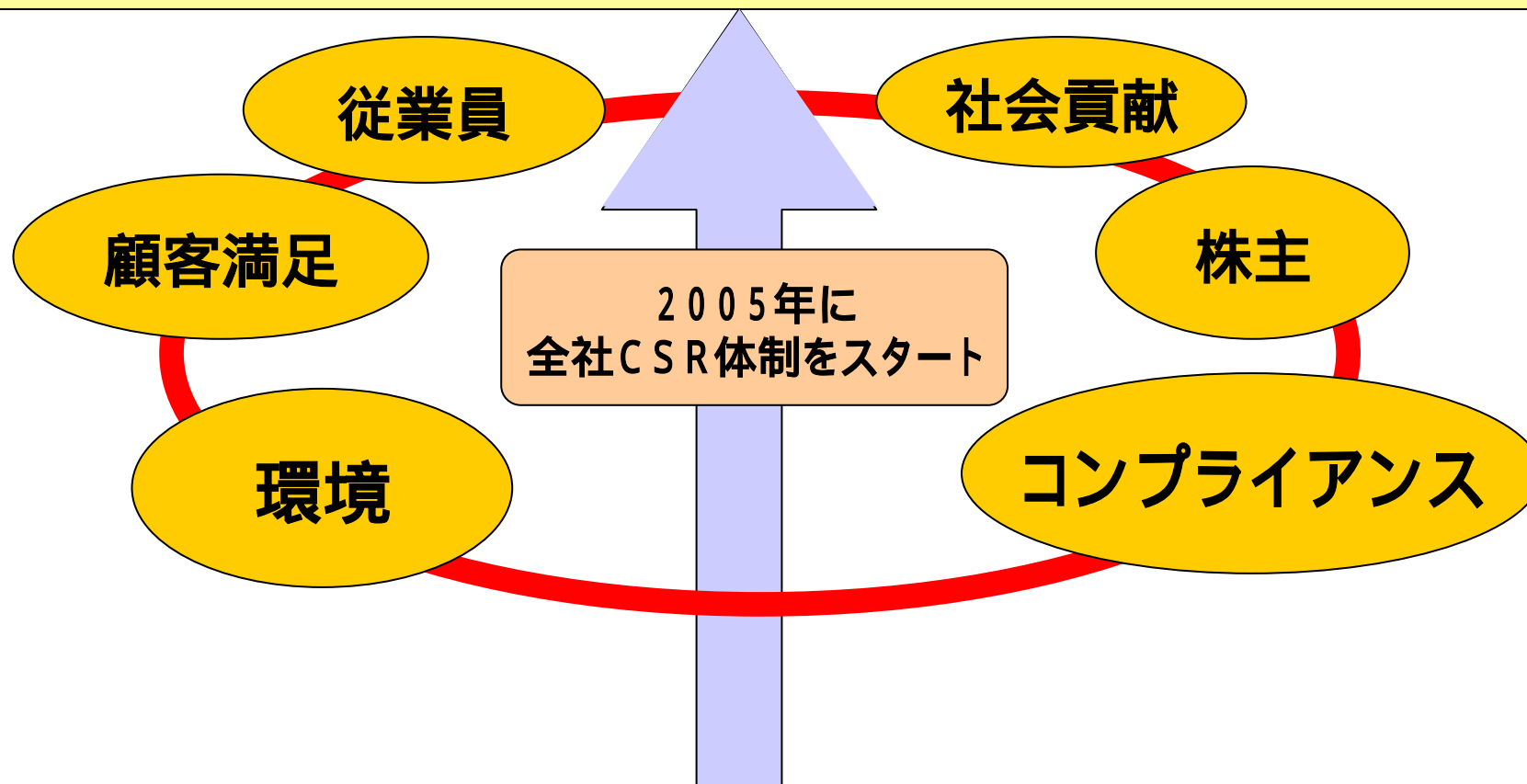
成長戦略とのバランスを取りながら、更に改善を目指す。

EBITDA = 営業利益 + 減価償却費
 CF = 当期利益 + 減価償却費 で算出

全社まとめ

CSRへの取り組み

New Vision …グループとしての**企業価値の向上**
 (株主価値、顧客価値、従業員価値…**すべてのステークホルダーに**)



経営理念 (…事業の社会的使命に徹し、国家社会に奉仕する)

全社まとめ

株主価値向上への取り組み

1. ROEの改善による株主価値向上を目指す。

- ・04年度実績 3.7% 05年度目標 4.7%
(07年度までに6%台を目標)

2. 配当政策

- ・まずは安定事業における業績を基盤とした安定配当。
- ・その上で、変化の大きな事業の業績が上ぶれした場合、さらなる拡大投資等への原資や、ある程度の潜在的なリスクに耐えうる水準の内部留保を確保した上で、特別配当等での利益配分の実施を検討。

【参考資料】 前提条件

		2003年度 実績	2004年度 実績	2005年度 見通前提
為替	(円/US\$)	114	110	107
原油(ドバイCIF)	(US\$/B)	29	38	37
減価償却費	(10億円)	14.9	12.6	13.0
設備投資	(10億円)	12.8	13.7	16.0
研究開発費	(10億円)	7.7	7.9	8.0
フリーキャッシュフロー	(10億円)	26.6	16.5	2.0
有利子負債	(10億円)	134.1	121.3	120.0
人員	(人)	12,612	13,385	-

原油価格反応度 1ドル/1Bの変動で1.0億円の減益要因
為替反応度 1円の円高で0.5億円の減益要因

【参考資料】

2005年度見通しまとめ

(10億円)	2004年度	2005年度見通	上期見通	下期見通
売上	265.0	274.0	129.0	145.0
板ガラス	171.0	176.0	82.0	94.0
情報電子	44.2	51.0	24.0	27.0
ガラス繊維	35.8	37.0	18.0	19.0
その他	13.9	10.0	5.0	5.0
営業利益	12.0	13.0	5.0	8.0
板ガラス	7.1	7.8	3.2	4.6
情報電子	1.1	1.6	0.4	1.2
ガラス繊維	4.5	4.6	2.2	2.4
その他	-0.8	-1.0	-0.8	-0.2
経常利益	13.3	15.0	6.0	9.0
当期利益	7.6	10.0	3.5	6.5

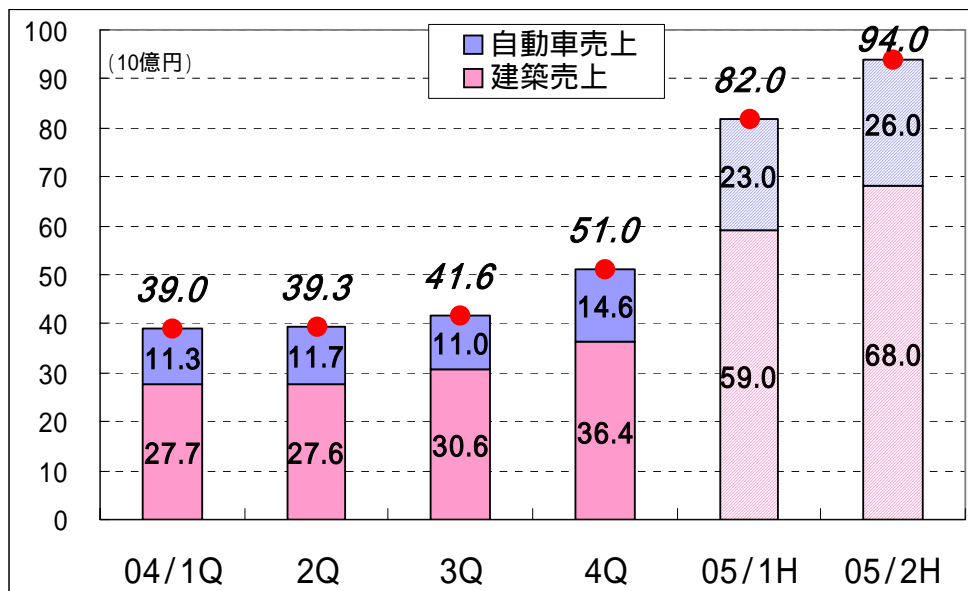
【参考資料】

板ガラス分野

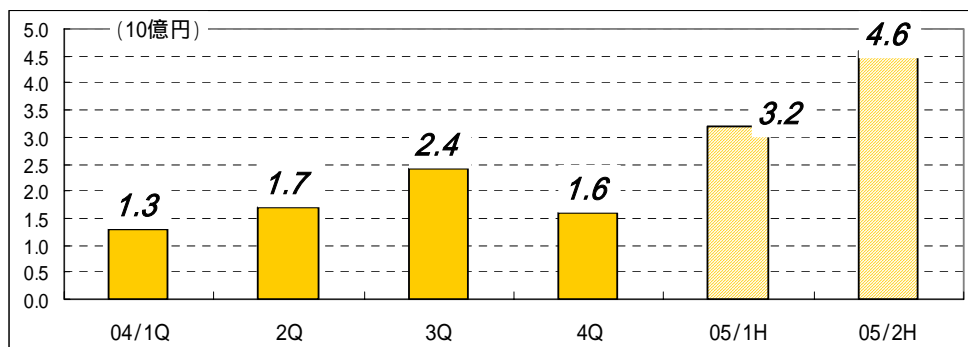
業績予想

売上

四半期推移



営業利益

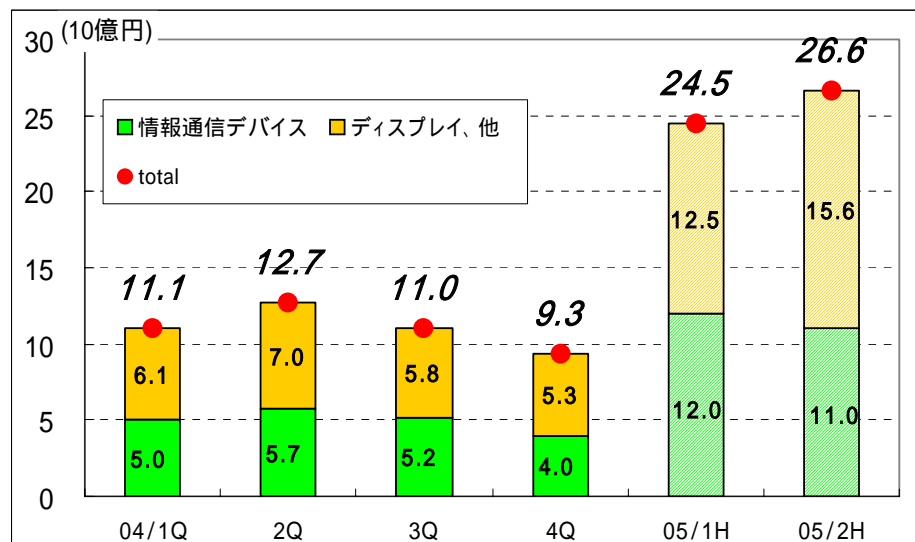


【参考資料】 情報電子分野

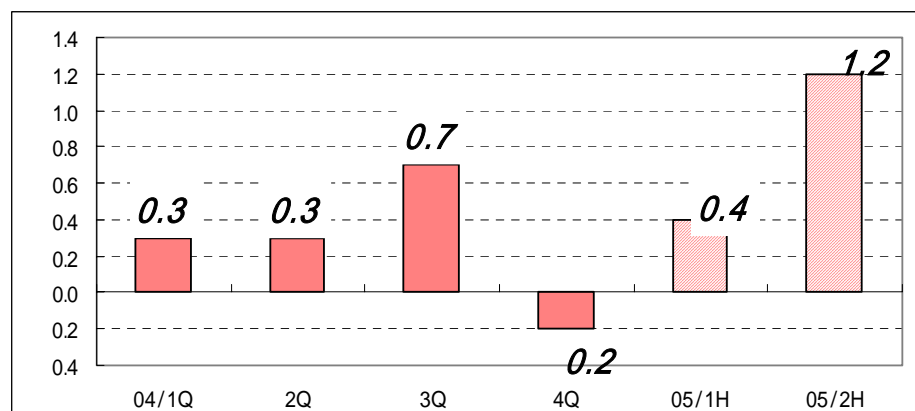
業績予想

売上

四半期推移



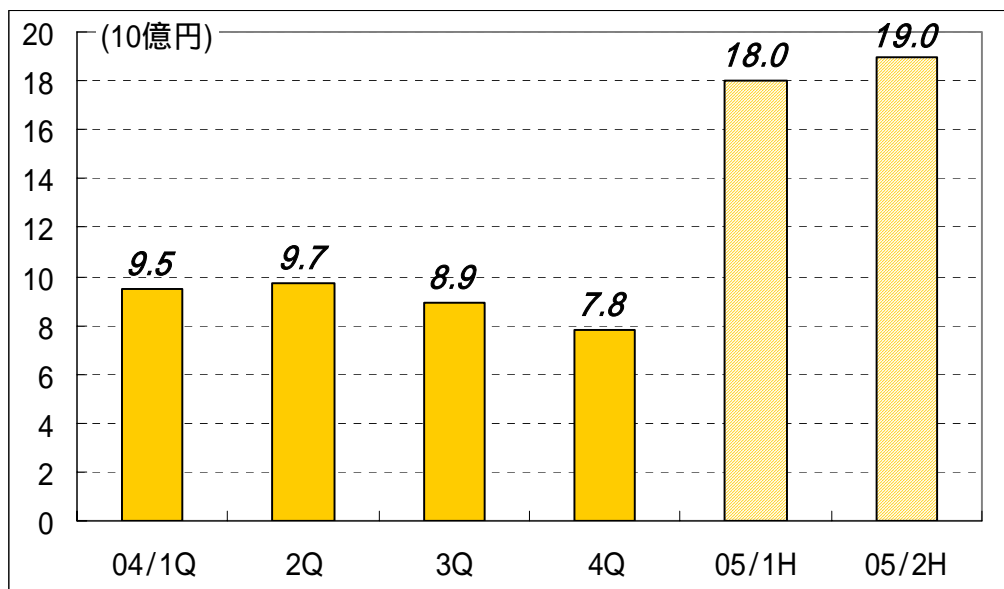
営業利益



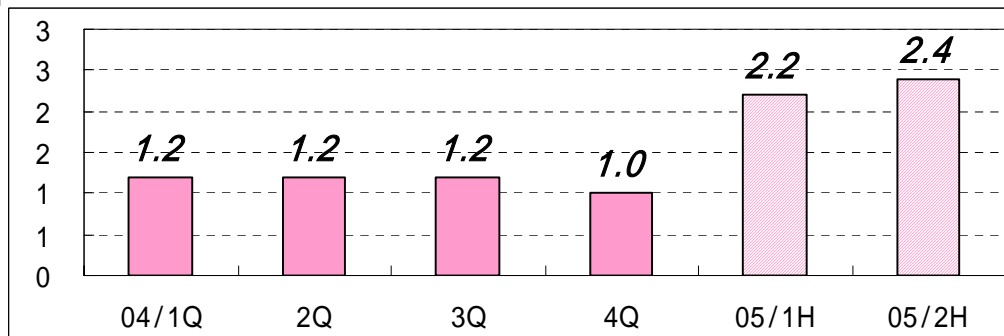
【参考資料】 ガラス繊維分野 業績予想

売上

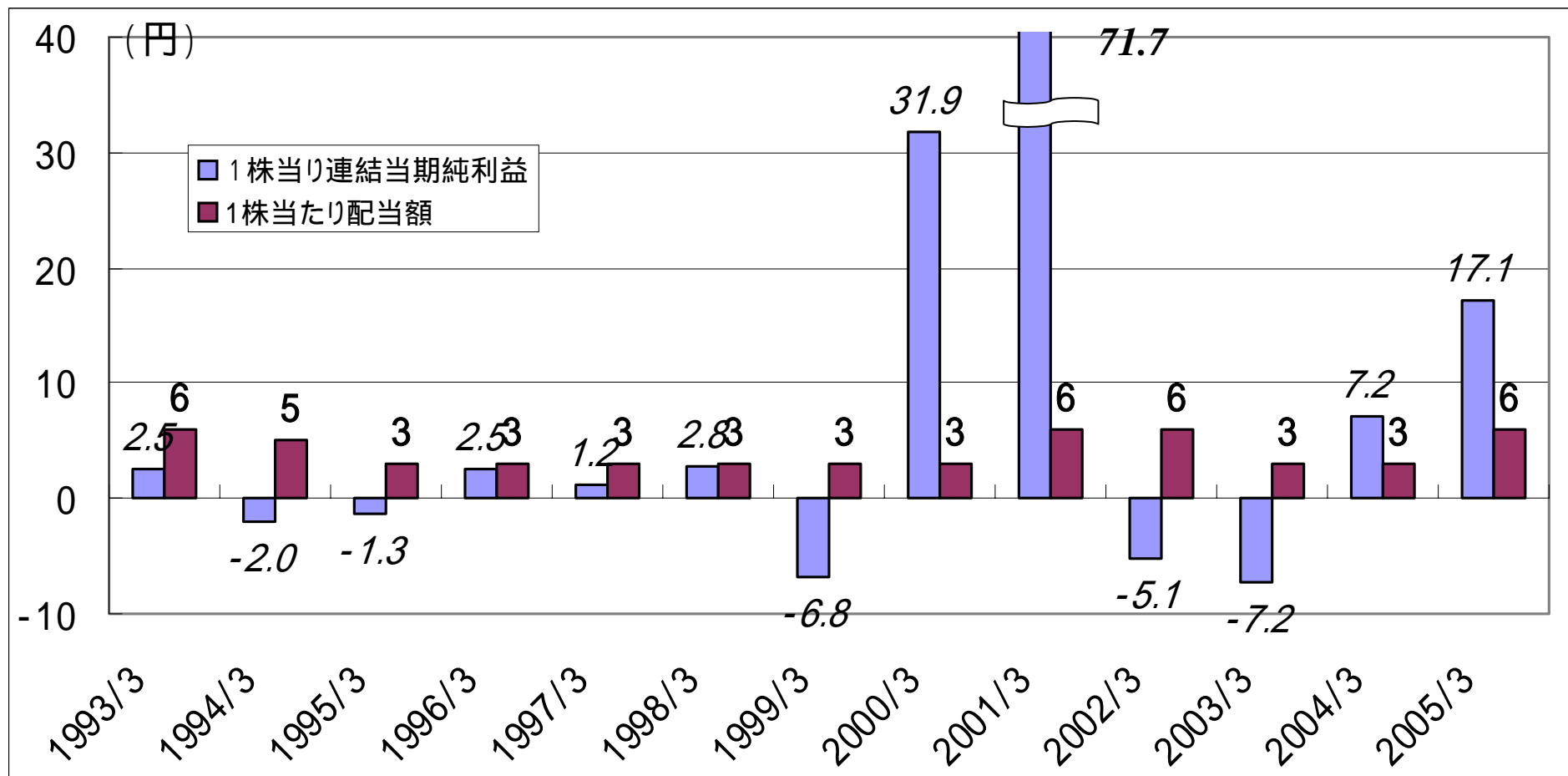
四半期推移



営業利益



EPS、配当推移



ご注意

当資料の業績見通しは、当社が現時点で入手可能な情報及び合理的であると判断する一定の前提にもとづいており、実際の業績は見通しと異なる可能性があります。その要因の主なものとしては、主要市場(日本、欧米、アジア等)の経済環境及び製品需給の変動、為替相場の変動等があります。

日本板硝子株式会社